

令和 8 (2026) 年度

**経済・経営学演習
経済工学演習**

募 集 要 項

九州大学経済学部

< 目 次 >

1. はじめに	1
2. ゼミ応募の際の注意	2
(1) 両学科共通の注意事項	2
a. ゼミは必修	2
b. ゼミの人数	2
c. ゼミの募集は第1次、第2次の2回に分けて行われます	2
d. 4年次以降から演習に参加する場合	2
e. 複数のゼミへの参加申込み	2
f. 高年次で留学を希望する場合	2
(2) 個別の注意事項	3
a. 経済・経営学科の皆さん	3
b. 経済工学科の皆さん	3
c. 人社系副専攻プログラムの単位として履修希望の文系他学部の皆さん	3
3. ゼミ募集スケジュール	4
4. ゼミ説明会日程一覧	5
5. 推奨科目一覧（経済・経営学科のみ）	7
6. 教員別ゼミ募集要項	8
*経済・経営学演習（経済分析系）	9
*経済・経営学演習（産業分析系）	20
*経済・経営学演習（企業分析系）	33
*経営工学演習	42

1. はじめに

2006年度に九州大学経済学部が導入したカリキュラムは、全国の主要大学のカリキュラムの研究を通じてその良き部分を取り入れ、なおかつ九州大学経済学部蓄積されてきた独自の研究成果が反映されるように工夫された、オリジナルで体系的なカリキュラムです。

このカリキュラムは、基本科目の体系的配置、大学院への進学容易化(学部・学府一貫教育プログラム)などのほか、3年次以上の演習(以下「ゼミ」と表記)が必修科目となっている点に、大きな特色があります。また2007年度からのGPA制度の全学的導入にあわせて、経済学部の修学指導体制も強化され、3-4年次の学生はゼミの指導教員が学生の修学や大学生活上の指導を担当することになりました。

これらのシステムにより、「経済学部にとりあえず入学したが、経済学になかなか興味を見出せない」「友人と何かと一緒に取り組んで頑張りたいがそのような機会がなかなか無い」など、これまでの経済学部で先輩の一部が直面してきた問題を、学生諸君と教員と一緒に解決していくことが期待されます。

Seminarとは、19世紀にドイツの大学で導入されて以来(そのためセミナーではなくゼミナールと呼びます)、全世界で広範に採用されている大学教育の普遍的な実施形態の一つです。最近「社会性」や「問題発見や解決スキル」を重視する企業が多く、大学での少人数教育がますます重視される傾向にあります。九州大学経済学部のゼミは、教員1名に対して学生が1学年約10名以下の密度の高い少人数教育となります。こうした性格から、同じ「単位」という成績認定方法を採用していますが、通常の講義とゼミとは、その意味内容が大きく異なります。「どのゼミに入るか」によって、「大学で何を学んだか?」のみならず「大学で何をしたか?」が決まるといっても過言ではありません。

皆さんは、この募集要項に記載された「2.ゼミ応募の際の注意」や「3.ゼミ募集スケジュール」などを熟読のうえ、「6.教員別ゼミ募集要項」でできる限り多くのゼミを比較検討し、経済学部HPに掲載される「演習参加申込書」をダウンロードのうえで応募してください。希望するゼミへのチケットが入手できることを祈念しています。

2. ゼミ応募の際の注意

(1) 両学科共通の注意事項

a. ゼミは必修

経済学部のカリキュラムでは、高年次の演習(経済・経営学演習、経済工学演習)は必修科目です。経済・経営学科では8単位、経済工学科では4単位を取得しないと卒業できません。4月になって新年度の演習の履修登録が可能となるのは、募集要項の3で示すスケジュールに従ってゼミに応募し、事前に指導教員から入ゼミを許可された人だけです。従って、皆さんは必ず本冊子を熟読のうえ、手続きに従ってゼミへの受入内諾を各担当教員から得てください。

b. ゼミの人数

ゼミには、学年毎の主演習としての参加可能人数の上限が設定されており、経済・経営学科では第1次募集が10名、第2次募集が1次募集での受講決定数と合わせて10名、経済工学科では第1次募集が約10名、第2次募集が第1次募集での受講決定数と合わせて約10名となっています。

従って受講希望者がその人数を越えた場合には、演習参加申込書による選抜が必ず行なわれることとなります。また、受講希望者が上記以下の場合でも、申込者が一定数に達した演習では選抜が実施されます。

c. ゼミの募集は第1次、第2次の2回に分けて行われます

第1次募集時にはゼミを1つ選び、「演習参加申込書」を1枚提出します。第2次募集時にはゼミを2つ選び、「演習参加申込書」を2枚(第1希望および第2希望)を提出します。

d. 4年次以降から演習に参加する場合

4年次からゼミへの参加を希望する学生は、3-4年次が別の時間帯に設定され演習内容が異なるゼミもありますので、「演習参加申込書」の所定欄に、参加を希望する演習が、①3年次を対象とするものか、②4年次を対象とするものかについて必ず記入してください。

e. 複数のゼミへの参加申込み

複数のゼミを受講することも可能です。

① 新3年生: 「3. ゼミ募集スケジュール」に示す第1次および第2次募集で、まず自分の専攻する学科の中から、自分にとって主となる演習(=主演習)に応募してください。主演習の結果発表後、3月以降に参加を希望する副演習の担当教員へ「演習参加申込用紙(副演習用)」を提出し、演習参加の許可を得てください。(教員から許可を得た学生だけが4月からの演習に参加することができます。)

② 新4年生: 既に3年次で演習を受講している学生が、4年生になってから「副演習」に応募することも可能です。その場合、主演習の結果発表後の3月以降に、参加を希望する副演習の担当教員へ直接相談のうえ「演習参加申込用紙(副演習用)」を提出し、演習参加の許可を得てください。(教員から許可を得た学生だけが4月からの演習に参加することができます。)

なお、「副演習」に関しては、自分が所属する学科とは異なる学科の演習に応募することも可能です。それぞれのゼミが「副演習」として応募可能かどうかは、第2次募集の採用結果を掲示する際に、学年別に掲示します。(副演習を募集するゼミと募集しないゼミがありますのでご注意ください。)

f. 高年次で留学を希望する場合

高年次において半年または1年間、海外留学する場合、「演習科目受講願」を学務課(経済担当)にて入手し、記入のうえ担当教員に提出し、教員の了承が得られた場合のみ演習への申し込みができます。

(2) 個別の注意事項

a. 経済・経営学科の皆さん

- ① 「主演習」による「系」の自動決定: 経済・経営学科生は、今回のゼミ募集で受入れが決まった「主演習」の担当教員が属する「系」に従って、「経済分析」「産業分析」「企業分析」の三つの「系」への配属が自動的に決まります(『学生便覧』参照)。所属する「系」ごとに、卒業に向け履修すべき「選択必修科目」が異なりますので、履修の際には十分に注意してください。
- ② 4年次で主演習を変更する場合: 3年次の主演習参加により決まった「系」は卒業まで動かせません。ただし、4年次になってから、3年次に受講した主演習とは異なる演習の受講を希望する学生は、3年次の「主演習」と同一の「系」内で、参加演習を変更することは可能です。希望する学生は、当該年度向けのゼミ募集の際に新たに新4年次生として応募して、受け入れ内諾を得てください。
- ③ 3年次で主演習と副演習の履修により卒業要件を満たした場合: 経済・経営学演習の必修は8単位ですから、3年次であっても主演習4単位と副演習4単位(ただし、経済・経営学演習に限る。)を同時履修して単位を修得すれば、卒業要件を満たすことになります。ただし、ゼミは単位取得だけを目的とするものではありませんから、できる限り3年次から卒業まで通して受講するようにしてください。(8単位を超えて修得した単位は8単位まで「自由選択科目」に含めることができます。)

b. 経済工学科の皆さん

経済工学演習の必修は4単位ですから、経済工学科の学生は、①3年次だけ履修、或いは、②4年次以降になってから履修、という受講方法も可能です。ただし、ゼミは単位取得だけを目的とするものではありませんから、できる限り3年次から卒業まで通して受講するようにしてください。なお、①の場合、早い時期(3年次の1月末まで)に指導教員にその旨を申し出てください。②の場合、上記「(1)d. 4年次以降から演習に参加する場合」に記載されている指示に従ってください。

c. 人社系副専攻プログラムの単位として履修希望の文系他学部の皆さん

横断型プログラムの「グローバル時代のビジネス」及び専門領域型プログラムの「経済学・経営学のツールで解く現代社会の諸課題」を履修しており、経済・経営学演習又は経済工学演習を履修希望の学生については、「副演習」募集の際にゼミ申込をしてください。1次募集、2次募集の際は、応募できません。

参加を希望する副演習の担当教員へ「演習参加申込用紙(副演習用)」を提出し、演習参加の許可を得てください。

3. ゼミ募集スケジュール

ここでは、ゼミの応募にあたっての注意と、手続きについて説明します。第1次、第2次募集の申込期限と内定者発表の流れは以下のとおりです。日時など間違わないように注意をして応募してください。

(1) 主演習の応募

11月上旬～	ゼミ募集要項を、 経済学部ホームページのゼミナール関連情報 (https://www.econ.kyushu-u.ac.jp/~seminar/index.php)で公開します。冊子の配布はありません。
11月5日(水)～12月24日(水)	オープンゼミ に参加して、教員や先輩の意見を聞き、応募するゼミを決めてください。なお、オープンゼミを開催するゼミと開催しないゼミがありますので、開催の有無、開催方法(対面/オンライン)、開催の日時・場所等はゼミ募集要項やゼミナール関連情報サイトで確認してください。 (※オープンゼミの開催日と履修している授業が重複する場合は、授業への出席を優先すること。)

(注) **オープンゼミ**とは、通常のゼミの様子(教員とゼミ生とのやりとりや学習内容)を見て感じてもらうために、ゼミの時間を開放する見学会をいいます。**ゼミ説明会**とは、ゼミの特徴や内容などを知ってもらうために特別に開催する懇談会をいいます。

【第1次募集】

12月25日(木)～1月7日(水)17:00 まで	「演習参加申込書」に記入の上、 指定の方法で提出 してください。 演習参加申し込みは一人一ゼミです。二つ以上申し込みした場合は無効になります。 また、メールでの提出は認めません。
1月23日(金)	経済学部掲示板及び 経済学部ホームページ に第1次募集の内定者名簿を掲示します。 【受入れが未決の学生】→第2次募集での受入れが「可」と表示されているゼミに、必ず応募してください。空きがあれば、第1次募集時と同一ゼミへの再申し込みも可能です。

【第2次募集】

1月23日(金)～1月28日(水)17:00 まで	第1次募集内定未決学生は、第1次募集の内定者名簿掲示の際に、第2次募集受入「可」(学年別に表示されるので注意してください)と表示されている演習を選択して、「 演習参加申込書 」を 2部(第1希望用および第2希望用) 作成し、指定の方法で提出してください。
	※教員によっては第2次募集期間中に面接を実施することがある。面接を受けられない場合の措置は教員によって異なるので、「演習参加申込書」を提出する前に、希望教員にメール等で確認しておくこと。
3月5日(木)頃、確定次第随時	経済学部掲示板及び 経済学部ホームページのゼミナール関連情報 に第2次募集の内定者名簿を掲示します。

(2) 副演習の応募

2次募集結果発表後(3月中)	副演習は3月中が募集期間となります。副演習への参加を希望する学生は、希望するゼミの教員へ相談のうえ、学務課経済担当ではなく、直接、教員へ演習参加申込書を提出してください。 入ゼミの可・否については、ゼミ教員が決めることとなります。 ※副演習を募集するゼミと募集しないゼミがありますのでご注意ください。
4月以降	受け入れが決まった演習に履修登録を行ってください。 (受入れ許可が出ていない演習への登録はできません。)

4. ゼミ説明会日程一覧

学科	系等	教員名	メールアドレス	実施日時		実施形態 (詳細は各教員ページを 確認すること)	実施場所	
経済・経営学演習	経済分析	加河 茂美	kagawa@econ.kyushu-u.ac.jp	11月21日(金)	16:30-17:30	対面	D-107	
				12月12日(金)	16:30-17:30	対面	D-107	
		中石 知晃	nakaishi@econ.kyushu-u.ac.jp	11月28日(金)	16:40-18:10	対面	E-208	
				12月5日(金)	16:40-18:10	対面	E-208	
				12月11日(木)	16:40-18:10	対面	D-107	
		八木 信一	yatsuki@econ.kyushu-u.ac.jp	オンデマンド				
		前田 真一郎	maeda@econ.kyushu-u.ac.jp	12月11日(木)	15:00-16:00	ハイフレックス(オンラインと対面)	E-211	
				12月18日(木)	16:40-17:40	ハイフレックス(オンラインと対面)	E-211	
		岩田 健治	iwata@econ.kyushu-u.ac.jp	募集しない				
		水野 敦子	amizuno@econ.kyushu-u.ac.jp	12月9日(火)	15:00-16:00	ハイフレックス(オンラインと対面)	E-109	
				12月16日(火)	15:00-16:00	ハイフレックス(オンラインと対面)	E-109	
		篠崎 彰彦	shino@econ.kyushu-u.ac.jp	募集しない				
		藤井 秀道	hidemichifujii@econ.kyushu-u.ac.jp	12月5日(金)	14:50-16:20	対面	D-105	
				12月19日(金)	14:50-16:20	対面	D-105	
		今田 青治	imada.seiya.104@s.kyushu-u.ac.jp	11月27日(木)	14:50-16:20	対面	E-201	
	12月4日(木)			14:50-16:20	対面	E-201		
	12月19日(金)			16:40-17:20	対面	E-201		
	安田 聡子	yasuda-satoko@econ.kyushu-u.ac.jp	11月20日(木)	15:00-16:00	対面	D-105		
			12月8日(月)	15:00-16:00	対面	D-105		
			12月15日(月)	15:00-16:00	対面	D-105		
	福田 峻	rfukuda@econ.kyushu-u.ac.jp	11月11日(火)	12:10-12:50	対面	E-211		
			12月10日(水)	16:40-17:20	対面	D-107		
	與倉 豊	yokura@econ.kyushu-u.ac.jp	12月2日(火)	12:15-12:45	対面	E-202		
	堀井 伸浩	horii@econ.kyushu-u.ac.jp	12月12日(金)	12:05-12:50	対面	E-205		
	鷺崎 俊太郎	shuntaro@econ.kyushu-u.ac.jp	12月4日(木)	16:40-18:10	対面	E-202		
			12月18日(木)	14:50-16:20	対面	E-202		
	北澤 満	kitazawa@econ.kyushu-u.ac.jp	12月11日(木)	12:10-12:50	対面	E-322		
			12月16日(火)	12:10-12:50	対面	E-322		
	左近 幸村	sakon@econ.kyushu-u.ac.jp	12月19日(金)	16:40-17:10	対面	E-206		
	産業分析	大坪 稔	otsubo@econ.kyushu-u.ac.jp	12月15日(月)	16:30-17:30	対面	D-103	
		岸野 早希	sakishino@econ.kyushu-u.ac.jp	12月23日(火)	16:30-17:00	ハイフレックス(オンラインと対面)	E-204	
		加納 拓和	kano@econ.kyushu-u.ac.jp	12月1日(月)	15:00-16:00	対面	E-112	
				12月22日(月)	15:00-16:00	対面	E-112	
		大石 桂一	oishik@econ.kyushu-u.ac.jp	12月9日(火)	16:40-17:40	ハイフレックス(オンラインと対面)	D-107	
		小津 稚加子	ozu@econ.kyushu-u.ac.jp	12月2日(火)	15:00-15:40	ハイフレックス(オンラインと対面)	E-205	
				12月16日(火)	15:00-15:40	ハイフレックス(オンラインと対面)	E-205	
		潮崎 智美	shiosaki@econ.kyushu-u.ac.jp	12月22日(月)	16:40-17:40	ハイフレックス(オンラインと対面)	E-206	
		経済工学演習	阿部 貴晃	takaakiabe@econ.kyushu-u.ac.jp	12月8日(月)	14:50-16:20	対面	E-103
					12月9日(火)	14:50-16:20	対面	E-208
	藤田 敏之		tfujita@econ.kyushu-u.ac.jp	オンデマンド				
池下 研一郎	ikeshita@econ.kyushu-u.ac.jp		11月19日(水)	13:00-13:30	対面	E-201		
山崎 大輔	yamazaki@econ.kyushu-u.ac.jp		12月12日(金)	12:10-12:40	ハイフレックス(オンラインと対面)	E-317		
瀧本 太郎	takimoto@econ.kyushu-u.ac.jp		11月26日(水)	12:20-12:40	対面	E-211		
村尾 徹士	mura@econ.kyushu-u.ac.jp		12月16日(火)	12:10-12:40	ハイフレックス(オンラインと対面)	E-208		
			12月18日(木)	12:10-12:40	ハイフレックス(オンラインと対面)	E-208		
宮崎 毅	tmiyazak@econ.kyushu-u.ac.jp		11月18日(火)	12:05-12:35	対面	E-203		
三輪 宏太郎	kotmiwa@econ.kyushu-u.ac.jp		12月23日(火)	12:10-12:40	ハイフレックス(オンラインと対面)	E-208		
室賀 貴穂	kiho.muroga@econ.kyushu-u.ac.jp		12月8日(月)	12:30-12:50	オンライン	オンライン		
浦川 邦夫	urakawa@econ.kyushu-u.ac.jp		12月19日(金)	12:10-12:50	対面	E-205		
吉田 賢一	kenichi.yoshida@econ.kyushu-u.ac.jp		11月5日(水)	16:40-17:40	ハイフレックス(オンラインと対面)	E-202		
葉 聡明	yeh@econ.kyushu-u.ac.jp		11月28日(金)	16:40-17:10	対面	E-201		
堀 宣昭	hori@econ.kyushu-u.ac.jp		11月10日(月)	16:40-18:10	オンライン	オンライン		
菅 史彦	f.suga@econ.kyushu-u.ac.jp		11月10日(月)	12:20-12:50	ハイフレックス(オンラインと対面)	E-211		
小室 理恵	rie.komuro@econ.kyushu-u.ac.jp		12月5日(金)	12:15-12:50	ハイフレックス(オンラインと対面)	E-202		
大西 俊郎	ohnishi@econ.kyushu-u.ac.jp		11月13日(木)	16:40-17:30	対面	E-201		
北原 知就	tomonari.kitahara@econ.kyushu-u.ac.jp		12月4日(木)	16:40-17:10	オンライン	オンライン		
松本 浩一	k-matsu@econ.kyushu-u.ac.jp		11月11日(火)	12:00-13:00	オンライン	オンライン		
伊豆永 洋一	izunaga@econ.kyushu-u.ac.jp	11月18日(火)	15:00-16:00	対面	E-208			
		12月2日(火)	15:00-16:00	対面	E-208			
李文	li.wen.209@m.kyushu-u.ac.jp	11月21日(金)	16:40-18:10	対面	E-201			
		11月27日(木)	16:40-18:10	対面	E-203			
		12月11日(木)	16:40-18:10	対面	E-203			

令和7年度ゼミ説明会 開催時刻・教室

(日付順)

月	日	曜日	時間	経済分析系		産業分析系		企業分析系		経済工学科			
				ゼミ	場所	ゼミ	場所	ゼミ	場所	ゼミ	場所		
11月	5日	水	16:40-17:40							吉田	E-202		
	10日	月	12:20-12:50							菅	E-211		
			16:40-18:10						堀	オンライン			
	11日	火	12:00-13:00							松本	オンライン		
			12:10-12:50			福田①	E-211						
	13日	木	16:40-17:30							大西	E-201		
	18日	火	12:05-12:35								宮崎	E-203	
			15:00-16:00								伊豆永①	E-208	
	19日	水	13:00-13:30							池下	E-201		
	20日	木	15:00-16:00			安田①	D-105						
	21日	金	16:30-17:30	加河①	D-107								
			16:40-18:10								李①	E-201	
26日	水	12:20-12:40							瀧本	E-211			
27日	木	14:50-16:20	今田①	E-201									
		16:40-18:10								李②	E-203		
28日	金	16:40-18:10	中石①	E-208									
		16:40-17:10								葉	E-201		
12月	1日	月	15:00-16:00					加納①	E-112				
	2日	火	12:15-12:45			與倉	E-202						
			15:00-15:40							小津①	E-205		
	4日	木	15:00-16:00								伊豆永②	E-208	
			14:50-16:20	今田②	E-201								
			16:40-18:10			鷺崎①	E-202						
	5日	金	16:40-17:10								北原	オンライン	
			12:15-12:50									小室	E-202
			14:50-16:20	藤井①	D-105								
	8日	月	16:40-18:10	中石②	E-208								
			12:30-12:50									室賀	オンライン
			14:50-16:20									阿部①	E-103
	9日	火	15:00-16:00			安田②	D-105						
			15:00-16:00	水野①	E-109							阿部②	E-208
			16:40-17:40							大石	D-107		
	10日	水	16:40-17:20			福田②	D-107						
	11日	木	12:10-12:50			北澤①	E-322						
			15:00-16:00	前田①	E-211								
			16:40-18:10	中石③	D-107							李③	E-203
	12日	金	12:05-12:50			堀井	E-205						
			12:10-12:40									山崎	E-317
			16:30-17:30	加河②	D-107								
	15日	月	15:00-16:00			安田③	D-105						
			16:30-17:30							大坪	D-103		
	16日	火	12:10-12:50			北澤②	E-322						
			12:10-12:40									村尾①	E-208
			15:00-16:00	水野②	E-109								
15:00-15:40									小津②	E-205			
18日	木	12:10-12:40									村尾②	E-208	
		14:50-16:20			鷺崎②	E-202							
		16:40-17:40	前田②	E-211									
19日	金	12:10-12:50									浦川	E-205	
		14:50-16:20	藤井②	D-105									
		16:40-17:20	今田③	E-201									
		16:40-17:10			左近	E-206							
22日	月	15:00-16:00						加納②	E-112				
		16:40-17:40							潮崎	E-206			
23日	火	12:10-12:40									三輪	E-208	
		16:30-17:00								岸野	E-204		

5. 推奨科目一覧（経済・経営学科のみ）

経済・経営学科の学生は、各ゼミが推奨する「基本科目」（＝推奨基本科目。以下の表を参照）を受講していることやその成績が、ゼミの選抜の際に参考とされるケースもありますので、その点を考慮して応募してください。

経済・経営学科のゼミ担当教員別 推奨基本科目一覧

学科の必修科目	1-2年					3-4年		系
	推奨基本科目					3-4年次演習 (ゼミ)担当教員	教員が担当している 専攻教育科目	
	経済史 I・II	経営学 I・II	会計学 I・II	情報処理I・ 計量経済学	国際 経済学 I・II			
【学部必修】 ・経済学入門 ＋ 【学科必修】 ・マクロ経済学Ⅰ ・マクロ経済学Ⅱ ・ミクロ経済学Ⅰ ・ミクロ経済学Ⅱ ・政治経済学Ⅰ ・政治経済学Ⅱ ＋ 【ゼミ推奨】 ・右表参照						加河 茂美	経済統計	経済分析
						中石 知晃	統計計量分析	
						八木 信一	地域政策	
						前田 真一郎	金融システム	
						水野 敦子	開発経済	
						藤井 秀道	現代日本経済論	
						今田 青治	(未定)	
						安田 聡子	産業技術	産業分析
						福田 峻	産業政策	
						與倉 豊	産業配置	
						堀井 伸浩	産業構造	
	◎※					鷺崎 俊太郎	日本経済史	
	◎					北澤 満	日本経済史	
	◎					左近 幸村	西洋経済史	
			◎			大坪 稔	経営政策	企業分析
			◎			岸野 早希	人的資源管理	
		◎			加納 拡和	日本経営論		
			◎		大石 桂一	企業会計		
			◎		小津 稚加子	国際会計		
			◎		潮崎 智美	財務会計		

注) 以上は2025年度開始時点の情報に基づくが、実際の開講にあたっては、教員の海外研修・新規採用、その他の事情により、一部で追加や変更が生じる可能性がある。

※「経済史Ⅰ」のみ推奨

6. 教員別ゼミ募集要項

* 経済・経営学演習（経済分析系）	9
* 経済・経営学演習（産業分析系）	20
* 経済・経営学演習（企業分析系）	33
* 経営工学演習	42

経済・経営学演習（加河茂美ゼミ）

授業科目名	経済・経営学演習		講義題目	環境経済システム論	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード	—	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	加河茂美	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	環境問題、資源問題、自然災害問題に関心があること		キーワード	パリ協定、環境規制、産業、企業、製品、都市、地球温暖化、循環型社会、環境問題、持続可能性、自然災害	
全体の教育目標	環境経済システムという大きな枠組みだけでなく、個別の環境規制策の有効性にも焦点を当て、現代の環境・資源問題の核心について学ぶ。現場見学、他大学ゼミとの合同セミナー、グループ学習などを通して、探究心、考察力を養う。		個別の学習目標		
授業の概要					
3-4年合同でゼミを行う。 3年生前期：教科書・参考書の輪読・発表（例：環境経済学をつかむ（栗山浩一・馬奈木俊介著）、環境評価入門（鷺田豊明著）、経済効果入門（地域活性化・企業立案・政策評価のツール）（小長谷一之・前川知史）など） 3年生後期：各自関心のある環境・資源・災害問題をテーマにして研究し、発表・質疑を通して問題の本質を理解し、問題解決に向けた政策提言を目指す。 4年生：各自関心のある環境・資源・災害問題をテーマにして研究し、発表・質疑を通して問題の本質を理解し、問題解決に向けた政策提言を目指す。					
授業計画					
3年生前期：教科書・参考書の輪読・発表・質疑、現地調査、 3年生後期・4年生：自分の問題意識のブラッシュアップ→研究テーマ案の発表→研究テーマの確定→研究→中間発表（9月合同セミナー）→研究→研究発表会・表彰（1月）					
授業の進め方 ゼミ形式			教科書及び参考図書 環境経済学をつかむ（栗山浩一・馬奈木俊介著）、環境評価入門（鷺田豊明著）、経済効果入門（地域活性化・企業立案・政策評価のツール）（小長谷一之・前川知史）		
試験・成績評価の方法等 平常点で評価する。			その他 演習参加申込を行い受講を認められた学生だけが登録できる。		
ゼミの企画、その他特記事項					
<ul style="list-style-type: none"> ● 4月：花見&新ゼミ生歓迎会 ● 5月～7月：バーベキュー、登山、海釣り、スポーツ大会（ボウリング大会・バレーボール大会など）、現場見学 ● 7月：HIOA 研究発表会（2025年度は Villa College [モルディブ] で開催） ※参加希望者のみ。旅費は研究予算を利用。 ● 8月：暑気払い ● 9月：合同ゼミ（2025年度は谷川ゼミ [名古屋大学]、橋本ゼミ [立命館大学]、重富ゼミ [立命館大学] と淡路島で実施） ● 10月：合同バーベキュー&芋煮会（2025年度は藤井ゼミ・中石ゼミ・瀧本ゼミ・潮崎ゼミ・チャップマンゼミ・阿部ゼミと実施） ● 11月：エコバランス国際会議研究発表会（2026年度はウイנקあいちで開催予定） ※参加希望者のみ。旅費は研究予算を利用。 ● 11月：ゼミ同窓会、登山、海釣り、スポーツ大会（ボウリング大会・バレーボール大会など） ● 12月：忘年会 ● 2月：合同卒業論文発表会（藤井ゼミ・中石ゼミ） ● 2月：卒業旅行 ● 3月：日本 LCA 学会研究発表会（2025年度は武蔵野大学 [東京] で開催予定） ※参加者の旅費は研究予算を利用。 					
応募に当たっての注意					
当ゼミの説明会は対面形式で行います。当ゼミ希望の学生は下記のゼミ説明会に少なくとも1回は参加してください。 第1回ゼミ説明会：11月21日（金）16:30-17:30 第2回ゼミ説明会：12月12日（金）16:30-17:30					

経済・経営学演習 (中石 知晃 ゼミ)

授業科目名	経済・経営学演習		講義題目	持続可能な生産と消費	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード	—	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	中石 知晃	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	環境問題、資源・エネルギー問題等の社会課題に対し、何らかの関心が有ること。		キーワード	環境経済、資源・エネルギー経済、生産性、消費者行動、持続可能な生産と消費、持続可能な開発目標 (SDGs)	
全体の教育目標	ゼミ活動全体で以下の4つの能力を養うことを目指します： ①分析力：解決すべき任意課題を見つけ出す力； ②思考力：任意課題の解決方法を考える力； ③実行力：任意課題の解決に実際に取り組む力； ④伝達力：課題解決までのプロセスを他者に伝える力。		個別の学習目標	任意の社会課題を、社会・環境・経済といった多角的な視点から捉える。 データ分析を通して、任意の社会課題を客観的・定量的に分析・評価する。	
授業の概要 ゼミでは、「環境経済学」や「計量経済学」に関する基本的な知識を習得した後、上記4つの能力を養うことを念頭に、皆さんが任意に設定した卒論テーマ（※SDGsの17の目標のいずれかに関連するものが望ましい）についての調査・分析・報告を、通年で行ってまいります。実際の調査では、アンケート調査や公開データ等をベースに、エクセルや統計ソフトウェア等を用いた実証データ分析を行ってまいります。数学（計量経済学）やPCスキルに不安があっても全く問題ありません、適宜サポートしていきます。					
授業計画 3年生前期：教科書の輪読・発表・質疑等をグループで行ってまいります（※教科書は右下を予定）。 3年生後期～：任意の卒論テーマを設定してもらい、設定テーマに関する調査・分析・報告を行ってまいります。4年後期の1～2月頃には調査内容を卒業論文として取り纏め、最終報告会にて発表してもらいます。					
授業の進め方 演習形式で行います。毎回の報告担当者がスライド（パワーポイント）形式で報告し、報告内容に対する質疑・討論等を全員で行ってまいります。ゼミは3年生、4年生、大学院生の合同で行います。			教科書及び参考図書 【教科書】環境経済学をつかむ [第4版]（有斐閣・栗山浩一、馬奈木俊介）；環境経済学の第一歩（有斐閣・大沼あゆみ、柘植隆宏） 【参考書】実証分析のための計量経済学（中央経済社・山本勲著）；地域データ分析入門 すぐに役立つEBPM実践ガイドブック（林 宜嗣、林 亮輔）		
試験・成績評価の方法等 平素の成績で評価。			その他 演習参加申込を行い受講を認められた学生だけが登録できる。		
ゼミの企画、その他特記事項 ゼミ活動における活発な議論は、ゼミ生同士の信頼(友好)関係の上に成り立ちます。また、良い研究のアイデアは、研究室や自宅に引きこもってはいは不思議と生まれず、散歩中や友人との会話の中で偶然生まれたりするものです。当ゼミでは、歓迎会、キャリアセミナー、スポーツ大会、山登り、現場見学、合同ゼミ、合同バーベキュー、同窓会、忘年会、ゼミ卒業旅行、学会参加、送別会等の様々なイベントを通して、ゼミ生同士は勿					

論、多種多様な社会人の方々とも積極的に関わり、個々人の知見を十分に広げてもらえればと思います。ゼミの詳しい活動内容や雰囲気等は、ゼミの公式 HP (<https://nakaishizemi.com/>) やゼミ生管理の Instagram 等をご覧ください。

応募に当たっての注意

ミスマッチを避けるため、ゼミ説明会(※対面で実施)へは原則参加して下さい。やむを得ない理由で参加不可能な場合は、nakaishi@econ.kyushu-u.ac.jp にメール頂ければ個別に対応を検討します。ゼミ説明会は、11月28日(金)、12月5日(金)、12月11日(木)の3日間(※各日ともに16時40分～17時30分の間を予定)の日程で開催します。応募多数で選抜となる場合は、志望理由や特定の社会課題への興味関心の度合いを重視します。オープンゼミは実施致しません。

経済・経営学演習（八木信一ゼミ）

授業科目名	経済・経営学演習		講義題目	人口減少社会における自治体地域政策と地方財政	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード*	—	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	八木 信一	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	とくになし		キーワード	持続可能な社会、自治体地域政策、地方財政、水道(下水道)事業、水道料金、地方公営企業	
全体の教育目標	広い意味で「地域」と主体的に関わることのできる人材を養成すること。		個別の学習目標	「地域」について「どうなるか」ではなく、「どうするのか」を具体的に提言できるようになること。	
授業の概要 人口減少と経済のグローバル化が進むなかで、日本においても「地方分権」、「地域主権」、そして近年では「地方創生」という名称のもとで、地域から持続可能な社会をつくるための諸改革が行われてきた。これらの成果については賛否両論あるが、地方自治体による地域政策(以下、自治体地域政策)のイノベーションと、それを促す分権型の地方財政制度の構築が大きなテーマとなっていることは見逃せない。そしてこのゼミでは、この大きなテーマに果敢に挑んでいく。そこではとくに、地方財政やそれに関わる自治体地域政策の実際と、これらの背後にある理論や思想との往復運動を絶えず試みることによって、演習参加者が自治体地域政策に関わる政策提言能力を養えることを目標としたい。					
授業計画 3年次前期は、地方財政に関する標準的なテキストに加えて、人口減少下におけるインフラの老朽化対策や料金のあり方などが近年注目されている、水道(および下水道)に関する文献を輪読する予定である。また、ゼミ論文の執筆準備も並行して行う。後期は、ゼミ論文の執筆を行う。4年次前期は3年次生と合同で演習を行い、後期は3年次生のゼミ論文を支援する役割等を担ってもらう。					
授業の進め方 文献輪読は①報告、②内容理解のための質疑応答、③議論(受講者数が多い場合はグループに分けて行う)、④教員からのコメント、⑤次回授業までに振り返りレポート(800字程度、3年次前期のみ)の提出、という順番でおこなう。ゼミ論文については、事前に論文を送付してもらい、それをもとに担当教員等がコメントを行う。			教科書及び参考図書 【教科書(前期輪読予定分)】 ●八木信一・関耕平・川勝健志・金子林太郎(2026)『地域からはじめる地方財政論』有斐閣。 ●橋本淳司(2025)『あなたの街の上下水道が危ない!』扶桑社新書。		
試験・成績評価の方法等 規定の出席回数を前提にしたうえで、演習活動の発展に対する貢献を総合的に判断して評価する。			その他 演習参加申込を行い、受講を認められた学生だけが登録できる。		
ゼミの企画、その他特記事項 <u>このゼミの最大の企画は、3年次におけるゼミ論文である。</u> ゼミ生自らが自治体地域政策に関わるテーマを設定し、3名程度のグループ単位で文献整理、統計分析、および現場調査に基づいてゼミ論文を作成する。また、この論文では政策課題の指摘だけでなく、それらの課題を現実的に解決するための政策提言も含んでもらう。そして、調査先の担当者等に対して論文に基づいた成果報告を行い、研究成果を社会へ還元することを最終目的とする。					
応募に当たっての注意 【ゼミ説明会・ゼミ見学について】 ① ゼミ説明会はオンデマンドで行う。 Moodleにおける本演習募集用のコース(詳しくは経済学研究院HPのゼミナール関連情報で情報提供する)を登録したうえで、「いつでも、どこでも、何度でも」視聴できる機会を設ける。					

- ② ゼミ見学は、オープンゼミ期間中のうち 11 月と 12 月のゼミ開催日において、対面参加と Zoom でのオンライン参加の両方で認める。参加方法や日程等、詳しくはMoodleにおける本演習募集用のコースで通知する。

【選考について】

- ① Moodle における本演習募集用のコース登録を必須とする(ただし、ゼミ説明会の視聴、ならびにゼミ見学は任意とする)。そのうえで、ゼミ選考は申込書(および面談を行う場合もあり)に基づいて行う。
- ② 申込書については記述された内容と分量で評価するが、「志望動機」と「これまでの大学生活で得たもの」は必ず含めること。
- ③ 面談 (Zoom で実施) は応募人数に関係なく、申込書の内容と分量だけでは意欲や能力等が十分に把握できない志望者、および新年度4年次生以上の志望者に対して行う。(なお、面談に応じなかった場合は不合格となるので、注意すること。)

【その他】

- ① 4年次生以上からの新規参加の場合についても、求める学習内容や学習水準は3年生と全く同じであり、ゼミ論文の執筆も義務づける。なお、4年次生以上については、ゼミ論文は卒業論文として位置づけているので、個人単位での執筆を認めている。
- ② このゼミの特徴は、「地域という現場」と「書くこと」へのこだわりである。地域という現場における様々な課題にしっかりと向き合いたい人、そしてその過程を通して自ら考えたことや学んだことについて書くことで表現したい人は、とくに歓迎したい。これらは一見して地味であるかもしれないが、グローバル社会で求められる姿勢や能力と、根底的なところでは共通するものである。なお、担当教員が抱いている「地域という現場」と「書くこと」に対するこだわりを理解したい人は、八木信一・関耕平(2019)『地域から考える環境と経済—アクティブな環境経済学入門』有斐閣を読んでほしい。
- ③ 地方財政に関わる内容を含んでいるので、公務員志望者も一定の関心があると思われるが、このゼミを受講することによって公務員の一次試験において優位に働くことは全くない。他方で、二次試験以降(論述試験および面接試験)においては、これまでのゼミ卒業生たちの就職実績を鑑みると、ゼミを通した「厚みのある学習経験」が大きくプラスに作用するようである。しかし、このゼミの最大のアドバンテージは、「公務員として何がしたいのか(また何ができるのか)を模索できること」にある。

経済・経営学演習

(前田真一郎 ゼミ)

授業科目名	経済・経営学演習		講義題目	グローバル化と金融	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード	—	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	前田真一郎	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	特になし。		キーワード	金融システム、グローバル化、フィンテック、金融危機、金融規制	
全体の教育目標	研究を通して、自ら考える力を伸ばし、自分の意見を論理的に述べるようになる。		個別の学習目標	グローバル化する経済のなかにおける金融の役割について自ら考察する。研究成果報告を通じたコミュニケーション能力の向上を図る。	
授業の概要 金融の理論を踏まえたうえで、現代において世界的に進んでいる事象（例えば、キャッシュレス決済など）をもとに、その広がりや金融との関係を幅広い視点で見えていく。演習では、各グループでの研究発表および全体討論を行う。そのうえで、研究成果をプレゼンテーション大会等で発表する。演習において、3年生と4年生は必要に応じて合同とすることもある。					
授業計画 第1回 ガイダンス：ゼミの進め方とゼミでの研究について話し合い、目的意識を共有する。 第2回以降 研究発表・討論：各グループでの研究発表および全体討論を行う。					
授業の進め方 いくつかのグループに分かれてテーマを選び、研究発表・討論を行います。			教科書及び参考図書 【教科書】 必要に応じて指示します。 【参考書】 必要に応じて指示します。		
試験・成績評価の方法等 平素の成績100%。 (4年時は、平素の成績30%、ゼミ論文70%)			その他 演習参加申込を行い受講を認められた学生だけが登録できる。		
ゼミの企画、その他特記事項 ゼミ生の自主性を重視します。グループごとの発表は、質疑応答の時間を長く設けて、ゼミ生同士で議論し発展させていきます。日本とアメリカでの経験も踏まえ、グローバルな視点で研究を進められればと思っています。また親ぼくを深めるため、スポーツやゼミ合宿を行います。それらを通じてゼミ生全員が親しくなり、卒業後も長い付き合いができればよいと思っています。					
応募に当たっての注意 ゼミ説明会を2回に分けて行います。ゼミ説明会は、自由参加とします(途中入出場可)。 また、来学が難しい方は、オンライン形式でのゼミ説明会に参加可能とします。オンライン形式(Zoom)でのアクセス方法等は、Moodle上の「経済・経営学演習(前田ゼミ説明会)(前田 真一郎)」に記載してあります。なお、説明会には、教員に加えゼミ生も参加し、個別に質疑応答の時間も設けます。いずれの説明会にも参加できない場合は、メール(maeda@econ.kyushu-u.ac.jp)のうえ、個別相談に応じます。					

経済・経営学演習

(水野 敦子 ゼミ)

授業科目名	経済・経営学演習		講義題目	途上国経済の実態と課題	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード	(記入不要)	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	水野敦子	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	自由選択科目「開発経済」を受講すること		キーワード	開発経済、農村開発、開発政策、格差・貧困、産業化、労働力移動	
全体の教育目標	開発経済の知識、理解を深めるとともに、グループ学習や議論、報告を通じて具体的課題の考察力、ディベート力、発信力の向上を目指す		個別の学習目標	途上国の経済開発に関する基礎的理論を総括的に学ぶとともに、開発途上国の具体的開発課題について、自ら研究課題を設定し考察を深める	
授業の概要 3年生では、まず開発経済の基本的な理論や知識の習得を目指し、テキストを精読します。そのうえで、参加者の関心に応じて、開発途上国が直面している開発課題について研究課題を設定し、グループで研究を行います。 4年生は、開発経済に関する学術論文を輪読するとともに、個別研究について順に発表し議論を深めます。研究成果は、3年生はグループ研究レポートに、4年生はゼミ論文にまとめます。 3、4年生合同を基本としますが、適宜別に行うこともあります。					
授業計画 3年生：(1～10回) 開発経済に関する基礎的文献の輪読。(11～20回) グループ研究、学術論文の輪読。(20～30回) 研究報告、研究レポートの作成。 4年生：(前期) 学術論文の輪読、研究課題の設定、(後期) 資料の収集とその分析、ゼミ論文の作成。					
授業の進め方 テキスト輪読、グループ・個別研究は、報告者を順番で割り当てます。学生諸君の発表、討論が中心。 また、適宜学外での活動を実施します。			教科書及び参考図書 【教科書】 適宜指定 【参考書】 適宜指定		
試験・成績評価の方法等 輪読の報告20%、ゼミ議論への貢献20%、グループおよび個人研究30%、研究レポート、ゼミ論30%			その他 演習参加申込行い受講を認められた学生だけが登録できる。		
ゼミの企画、その他特記事項 グループ研究の完成、ゼミ論の作成は単位取得の必須条件です。ゼミでの能動的な学びによって、授業では身に着けることができない能力を向上させることができます。その他のゼミ活動においても、学生の主体的な企画を歓迎します。研究発表会は、学内(堀井ゼミ、北澤ゼミ、鷺崎ゼミと合同)、学外では、西南学院大学、韓国の東国大学と開催。ゼミ合宿もゼミ生と相談して決定します。近年は、2023 年度タイ、2024 年度熊本、2025 年度韓国、何れも低予算で開催しています。					
応募に当たっての注意 希望者は、ゼミ説明会に必ず出席すること。やむを得ず、出席できない場合は、応募前に連絡、相談してください。ゼミ説明会では、当ゼミ3年生のグループ研究の発表がありますので、関心のある人は聴講してください。応募者には、簡単な面談を行います。					

演習参加申込書の提出方法(※提出にあたっては、教員が ■ と指示している提出方法に従うこと。)

第1次募集 手書き Word ファイル いずれも可

第2次募集 手書き Word ファイル いずれも可

経済・経営学演習

(藤井 秀道 ゼミ)

授業科目名	経済・経営学演習		講義題目	ESG経営とSDGs	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード	—	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	藤井 秀道	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	自ら能動的に研究課題や分析手法を探し出し、積極的な姿勢で演習に参加する学生		キーワード	ESG経営、環境と経済の両立可能性、持続可能な開発目標(SDGs)、データ分析、Python	
全体の教育目標	経済学的な視点から物事を批判的に考察し、代替案・改善案を提案できる能力を身につける。		個別の学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 課題設定能力の育成 2. 批判的思考や質問する能力の育成 3. プログラミング能力の育成 	
授業の概要					
<ul style="list-style-type: none"> ・藤井秀道ゼミでは「持続可能性」、「環境と経済の両立可能性」、「ESG経営」をキーワードとした調査テーマについて、理解を深めていきます。特に企業の財務・ESG活動に関連したデータセットを活用し、日本経済の競争力を高める上での課題や具体的な取り組みについて、調査・分析を行います。 ・演習を通じて卒業研究テーマを設定し、研究目的及び研究仮説を構築します。研究仮説の検証を進めるために、様々なデータ(日経NEEDS、東洋経済CSR企業総覧、World Development Indicators)を利用します。データの加工・分析を行う上で必要となるPCスキルの向上もゼミの中でサポートします。 ・ゼミは3年生、4年生、大学院生が合同で行います。 					
授業計画					
3年生：データ分析手法や先行研究調査に関する内容をグループワーク形式で学ぶ。 個人で卒業研究テーマの選定を行い、ゼミ合宿や学部・学府合同ポスター報告会で報告を行う。					
4年生：先行研究調査・データ収集・分析の実施・考察を行い、2月に実施される卒論報告会で報告を行う。					
授業の進め方			教科書及び参考図書		
演習形式で行います。受講生による調査内容の報告及び質疑・討論を中心に進めていきます。			【教科書】適宜指定します。 【参考書】適宜指定します。		
試験・成績評価の方法等			その他		
平素の成績で評価します。			演習参加申込を行い、受講を認められた学生だけが登録できる。		
ゼミの企画、その他特記事項					
<ul style="list-style-type: none"> ・歓迎会(4月)、ゼミ合宿(8月)、忘年会(12月)、送別会(3月)、合同BBQ(10月)等を開催予定です。 ・企業との合同ワークショップや工場見学など、産学連携を通じた学びの場を企画しています。 ・学生の留学に対しては柔軟に対応します(留学中にメール、Slack、Zoomによる遠隔指導を行います)。 ・4年生はゼミ論文を作成し、最終報告会(2月上旬)で報告してもらいます。 					
応募に当たっての注意					
<ul style="list-style-type: none"> ・ゼミ説明会への参加は必須です。参加前にゼミナール関連情報の関連サイトを必ず確認してください。 <p>⇒履修している授業との重複などでやむを得ず参加できない場合は hidemichifujii@econ.kyushu-u.ac.jp にその旨、連絡してください。個別に対応します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・応募多数で選抜となった場合には、個別に面談を実施します。志望理由及び調査テーマへの関心度合いを重視します。特に、志願者のこれまでの活動・取り組み実績を重視して評価を行います。 					

経済・経営学演習

(今田 青治 ゼミ)

授業科目名	経済・経営学演習		講義題目	生態経済学と環境政策	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード	—	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	今田青治	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	環境問題、資源・エネルギー問題などに関心があること		キーワード	生態経済、環境経済、資源、エネルギー、持続可能な生産と消費	
全体の教育目標	ゼミ活動を通じて、情報を自ら調べ、考え、活用する力を養います。また、発表や質疑応答を通じて、思考力とプレゼンテーション能力の向上を目指します。		個別の学習目標	自身の研究を深く理解し、その内容を自身の言葉で伝える能力を身につける。	
授業の概要					
ゼミでは「生態経済学」や「環境経済学」に関する輪読を行った後、自身で設定した研究課題（環境問題、資源、エネルギー問題などに関連するものが望ましい）について情報収集・分析・発表を行ってまいります。研究を進めるうえで、Excel等を用いたデータ分析を行ってまいります。その際のPCスキル等のサポートは適宜行っていきます。					
授業計画					
3年生前期：教科書の輪読・発表・質疑応答（※教科書を適宜指定）					
3年生後期以降：自身の研究テーマ案の発表し、研究テーマの決定後、研究を進めてもらい、進捗報告を行ってまいります。4年後期の1~2月頃に研究内容を卒業論文として発表してまいります。					
授業の進め方			教科書及び参考図書		
演習形式で行います。報告担当者がスライド（パワーポイント）を作成し、報告及び質疑応答を行ってまいります。ゼミは3年生、4年生、大学院生の合同で行います。			【教科書】 教科書：適宜指定		
			【参考書】 参考書：適宜指定		
試験・成績評価の方法等			その他		
平常点で評価します。			演習参加申込を行い受講を認められた学生だけが登録できる。		
ゼミの企画、その他特記事項					
ゼミでは「考える力」を養うために、発表に対してはどんな些細なことでも構いませんので、積極的に質問してもらいたいと考えています。また、ゼミ生同士の交流を深めるために、歓迎会や忘年会、スポーツ大会、キャリアセミナーなどのイベントも行う予定です。イベントを通してお互いを知り、さまざまな考え方に触れてほしいと思います。研究に集中するときはしっかり集中し、イベントでは思いきり楽しむ——そのような学びと交流のメリハリのあるゼミを目指しています。					

なお、当ゼミは来年度から始まる新しいゼミですので、ゼミ生の希望を取り入れながら、みんなで企画をつくっていきたいと考えています。

応募に当たっての注意

ゼミ説明会(※対面)へは原則参加とします。やむを得ない理由で参加できない場合は、imada.seiya3@gmail.com に連絡を下さい。個別で対応します。ゼミ説明会は、11月27日(木)、12月4日(木)の14:50~16:20と12月19日(金)の16:40~17:20の日程で開催します。

応募多数で選抜になる場合は、志望理由を重視します。

経済・経営学演習

(安田聡子 ゼミ)

授業科目名	経済・経営学演習		講義題目	イノベーション・マネジメント	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード	—	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	安田聡子	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	特になし		キーワード	新技術の誕生・普及、知識の商業化、イノベーションのエコシステム	
全体の教育目標	<ul style="list-style-type: none"> 新技術誕生・普及により経済効果が発生し社会に影響が及ぶまでの長い過程を、複数の局面から観察・分析する。文献精読、報告、討論の繰返して分析能力とプレゼン力を高める。 インターゼミやビジネス・プランコンテストに参加して他大学生と切磋琢磨し、自分の「強み」と「限界」の両方を知る。 		個別の学習目標	<ul style="list-style-type: none"> 良質な最新情報に毎日触れて情報感度を高める。 文献精読により調査・分析の核となる理論を習得する。 プレゼン・討論・レポート作成により分析結果を説得的に述べる術を磨く 	
<p>授業の概要</p> <p>新技術が誕生して財（製品・サービス）となり、普及して経済価値を生み出し、企業経営や人間生活にまで影響を及ぼす長い過程を「イノベーション・プロセス」と呼びます。このプロセスを「知識創造」、「価値創造」、「価値獲得」という3局面に分け、各局面固有の問題について調査・分析を加えるのがイノベーション研究です。有名な「オープン・イノベーション」論は知識創造局面におけるマネジメントを論じたものです。ビジネス・パーソンに人気の「破壊的イノベーション」は価値創造と獲得に関する議論です。担当教員自身は「知識創造－価値創造」の境目に注目し、モビリティ（機械や人材の移動）が技術の誕生と普及にどのような影響を与えているのかを調査していますが、多様なバックグラウンドを持つ研究者との交流を通して、イノベーション・プロセス全体を念頭に置きながら研究を進めています。</p> <p>こうした研究をしているので、最新技術やヒット商品には常に敏感であろうと心がけていますが、昭和世代のため世の中についていくのは大変です。インスタの登録はしたものの、フォローしているのはNHKと安田ゼミだけ、TikTokをみても何が面白いのかさっぱり分かりません。スマートウォッチを買ってはみたものの、機能が多すぎて使いこなせません。このように「イノベティブでありたい」と奮闘し苦勞している教員を助けてくれる先端的な学生、対照的に古いモノが好きな学生、なんでも普通が良いまったりした学生、海外志向の学生、地元大好き学生など、多様な学生を集めて、互いの価値観を理解し許容しあう「居心地の良い学びの共同体」を創りたいと思っています。</p> <p>ゼミは3・4年合同で行います。事前に指定する文献を読み、その内容について討論し、さらにそこで学んだことを応用しながら現代的な事象を自分の言葉で解説する、ということを繰り返します。</p> <p>評価は「毎回の準備状況」、「ゼミへの貢献」、「期末レポート（あるいは卒業論文）」という3つの評価軸に基づきます。「期末レポート（あるいは卒業論文）」については、分析や記述が充実していることはもちろん重要ですが、「意義ある（そして自分に合った）テーマを発見できるか」を最も重視します。</p> <p>担当教員の海外滞在経験（アメリカの大学院およびイギリスの研究所）に基づきながら、留学指導も積極的に行っています。</p>					

授業計画 第1回目 ガイダンス 第2回目以降 初回のガイダンスの指示に従い、文献輪読、プレゼン、討論を進めていく ゼミ最終回 期末レポート（あるいは卒業論文）の報告会	
授業の進め方 演習形式で行います。教科書の指定箇所を読んでからゼミに参加してください。ゼミではまず教員が指定箇所に出てくる事象やキーワードを取り上げ、ゼミ生に質問をします。ゼミ生は自分なりの解釈や定義について発言してください。続いて、指定箇所に関連する問題を出しますので、グループ単位で解答を考えてプレゼンテーションを行ってください。その後の討論では、鋭い質問、風変りなコメント、ひねくれた意見などを歓迎します。 また、時事ニュースについても頻繁に質問しますので、政治・経済・ビジネスに関するニュースを積極的に収集するようにしてください。	教科書及び参考図書 【教科書】 および 【参考書】 授業中に指示しますが、過去には下のような文献を講読しました。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 後藤晃『イノベーション』、東洋経済新報社、2016年。 ・ マカフィー&ブリニョルフソン『プラットフォームの経済学』、日経BP社、2018年。 ・ 中村正道『ブランディング』、日経文庫、2019年 ・ 清水洋『野生化するイノベーション』、新潮選書、2019年。 ・ 加藤雅俊『スタートアップの経済学』、有斐閣2022年。 ・ アギヨン 他『創造的破壊の力』、東洋経済新報社、2022年。 ・ 清水洋『イノベーションの考え方』、日経文庫、2023年。
試験・成績評価の方法等 毎回の準備状況、ゼミへの貢献、期末レポート（あるいは卒業論文）等に基づく総合評価	その他 演習参加申込を行い受講を認められた学生だけが登録できる。
ゼミの企画、その他特記事項 <p>みなさんは5期生になります。歴史の浅いゼミですので、ゼミ生の希望や個人特性を考慮しながらフレキシブルにゼミを運営したいと思います。ただし、articulation(明瞭に発言すること)の訓練は繰り返し行います。何かを明瞭に述べるためには、発言を歓迎する雰囲気や聞き手のことを理解するチャンスも必要です。そうした雰囲気づくりのためにも、コンパ等のリクリエーション活動も積極的に行いたいと思います。</p> <p>先輩たちは、学外のビジネスプラン・コンテストに参加してきました。そうしたイベントへの参加を促し、積極的に指導を行っていきたいと思います。また 2024 年と 2025 年には、関西学院大学商学部・兵庫県立大学社会情報科学部の学生と「デザイン思考プロジェクト」という合同ゼミを行いました。2026 年もインターカレッジゼミを実施できるように、現在調整中です。なお、大学院進学希望者には補習を実施しています。</p>	
応募に当たっての注意 <ul style="list-style-type: none"> ・ お互いに初対面ですので、入ゼミ後のミスマッチを防ぐという意味で、説明会に参加し、希望を述べたり質問をしたりすることが重要です。 ・ オープンゼミへの参加は任意です。日程は「ゼミナール関連情報サイト」でお知らせします。 ・ 応募者多数となった場合は、なるべく多様な個性を持った学生が集まるように、志望理由と成績の両方を参考にしながら選抜します。成績の良い学生、成績は今一つの学生、個性的な学生、生真面目な学生、都会的な学生、素朴な学生、体育会系、文化系、宴会系、オタク系、帰宅系など、さまざまな個性が化学反応を起こすようなゼミにしたいと思っています。したがって、志望理由書は「貴方はどういう人なのか、何に関心を持っており、将来はどうなっていたいのか。」が読み手にも伝わるように書いてください。 ・ どちらかという「視野が広い」方の方が有利です。とはいえ、現ゼミ生は深慮遠謀の人々ではなく、ごく普通の大学生です。 	

経済・経営学演習 (福田峻ゼミ)

授業科目名	経済・経営学演習		講義題目	まちから国土まで：都市・地域を考える	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード	—	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	福田峻	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	特になし		キーワード	都市計画/まちづくり、国土計画、地域産業政策、地理情報分析	
全体の教育目標	個人研究や、その報告・議論を通じ、都市・地域について幅広い視野から自らの力で考える力を養う		個別の学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学術論文・学術書を読み解く力をつける ・地理情報システムなどを利用し地域を分析する力をつける ・自らテーマを設定し論文を執筆する力をつける 	
授業の概要 都市・地域を対象にした卒業論文を、自分自身でテーマを設定したうえで執筆します。対象とする地域やそのスケール、分析手法は様々なものが想定されます。 3年生では、卒業論文執筆のための準備として、自身の関心のあるテーマについての文献を講読し、知識習得するとともに、学術的な文章の読み方・書き方に慣れていきます。また、地理情報システム（GIS）と呼ばれるソフトウェアの使い方を学び、都市・地域に関する情報を可視化し、分析する力を身に着けます。 4年生では、各自のテーマに従って卒業論文の執筆を行います。研究の進捗をゼミ内で共有し、学生相互で議論し自身の研究に役立てます。 いずれの局面においても、自ら考え主体的に研究を進め、議論に参加することでゼミに貢献することが求められます。					
授業計画 3年生：前半は都市・地域に関する文献の講読、後半は地理情報システム（GIS）の使い方を学ぶ 4年生：自分で決めたテーマに従って卒業論文を執筆する					
授業の進め方 演習形式			教科書及び参考図書 【教科書】 適宜指定 【参考書】 適宜指定		
試験・成績評価の方法等 3年生：平常点100% 4年生：平常点30%、卒業論文70%			その他 演習参加申込を行い受講を認められた学生だけが登録できる。		
ゼミの企画、その他特記事項 2025年度より開講の新しいゼミで、皆さんは二期生となります。ともに新しいゼミを創っていきましょう。 教員は都市計画（建築学や土木工学の隣接分野）のバックグラウンドを持ち、国土計画や中心市街地活性化などに関心をもって研究をしてきました。講義は3年生以上対象の「産業政策」を担当していきます。本ゼミでは、経済学的視点に軸足を置きつつ、学際的視点で都市や地域を研究することを目指します。そのため、卒業論文の内容も皆さんの関心に応じて自由に設定していただきます。前任校（岡山大）では「三大都市圏と地方圏の比較から e スポーツによる地方創生を考える」「民間企業主導のサテライトオフィス事業が持つ今後の地方創生におけるポテンシャルについての考察」「日本における一極集中の現状とその取組に関する諸外国との比較」「高原地域の観光地における外国人宿泊客の実態について」「財政と民間非営利団体の関連について」等の題目の卒業研究を指導しました。卒業論文の執筆を通じ					

学修目標に掲げた力を身に着けることができると同時に、一つのテーマについて考え抜いた経験は卒業後の人生においても大きな糧になるものと考えています。

また、通常のゼミ以外の企画として、まち歩きや懇親会などの実施を想定しています(今年度の夏学期は、歓迎会と天神地区のまち歩きを実施しました)。ただし、上述の通り新しいゼミですので、参加する皆さんの希望に応じて企画を設定していきたいと考えています(通常のゼミ以外の参加は任意とします)。

応募に当たっての注意

12月15日(月)14時50分よりEast2号館E-E203号室にてオープンゼミを実施します(学生からの報告・議論を行う前半部のみ公開、最大でも1時間半程度。途中入退出可)。説明会には昼休み開催のものもございますが、飲食物等適宜持ち込んで気軽にご参加ください。説明会・オープンゼミとも参加必須ではありませんが、教員とのミスマッチを防ぐためにも参加を推奨します。説明会参加の都合がつかないが話を聞きたい場合や、相談したいことがある場合はメール(rfukuda@econ.kyushu-u.ac.jp)でご連絡願います。ご希望に応じて個別に対応いたします。

また、申込書には、興味のある研究テーマをご記載ください(まだ何もわからない段階かと思えますので、漠然としたもので結構です)。応募多数により選抜を行う場合は、志望理由を重視しつつ、成績も含め総合的に判断します。

経済・経営学演習

(與倉 豊 ゼミ)

授業科目名	経済・経営学演習		講義題目	経済地理学	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード*	—	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	與倉 豊	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	特になし		キーワード	地域経済, 地方創生, イノベーション, 都市, 文化産業	
全体の教育目標	経済地理学関連の学術論文の精読, レジュメ作成, 報告, ディスカッションを通じて, 現代の地域経済に関する実態の理解を深める.		個別の学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・文献研究により, 独自の研究テーマを探索する. ・基礎的な統計資料の収集・分析により対象地域・産業の概要を把握する. ・実態調査, 論文作成 	
授業の概要 <p>・ゼミでは地域経済や産業地域をめぐる様々な現代的テーマ(題材)に関して, 「経済地理学」を土台とした研究を遂行していきます. 経済地理学は経済活動の地理的な側面に光を当てる学術分野なので, 対象地域も対象産業もいろいろなものが考えられます. 担当教員は製造業の研究を専門としていますが, 農業や商業, 観光業, また対象地域も農山村から大都市まで広く関心を持っています. 最近では都市再開発に関しても論文を発表しています. ゼミを通して学生の皆さんに経済地理学のもつ懐の深さを伝えたいと考えています.</p> <p>・ゼミは3・4年生合同で行いますが, 3年生は事前に指定する経済地理学関連の学術論文に関して, レジュメを作成し, 報告します. また基礎的な統計資料の収集・分析など, 地域分析の手法について指導します. なお, 年度末のゼミ最終回を締め切りとして, 地域分析レポートを提出する必要があります.</p> <p>・4年生は各自で設定する研究テーマに関連した文献報告を行うとともに, 対象地域, 対象産業の調査を行い, 研究の進捗状況について報告します. 以上の成果として, 各自がゼミ論文(卒業論文)を提出し, 年度末には研究室の大学院生も含めて, 発表会を実施します.</p>					
授業計画 第1回 ガイダンス: ゼミの進め方, 文献探索の方法, レジュメの作り方について 第2回以降 初回ガイダンスの指示に従い, 文献報告, 研究の進捗状況の報告を行う. ゼミ最終回 4年生によるゼミ論文の発表会					
授業の進め方 ・演習形式で行います. 文献報告においては, 報告者以外も事前に取り上げる論文を読み, 論文に関する疑問, コメントなどを Moodle にて提出してもらいます. 参加者全員が論文を読んでもらうことを前提としてゼミを進めますので, 質の高いディスカッションを行うことが求められます.			教科書及び参考図書 【教科書】 半澤誠司ほか編(2015)『地域分析ハンドブック』ナカニシヤ出版.		
試験・成績評価の方法等 ゼミでの報告, ディスカッションへの参加 50%. レポート, ゼミ論文, 50%.			その他 演習参加申込を行い受講を認められた学生だけが登録できる.		

ゼミの企画、その他特記事項

ゼミ生はオリジナルな研究の成果として卒業論文を執筆し、その成果は『與倉ゼミ論文集』として毎年冊子にまとめられています。卒業論文ではデータを集めて地域統計分析を行うほか、インターネットを活用し既存の資料分析を中心に産業地域の事態把握を試みたり、余力のあるゼミ生のなかには現地調査を行う学生もいます。3年生の間に卒業論文のテーマを何にするか時間をかけて検討し、4年生になってから実際に研究を進めるという手順でオリジナルな論文作成に取り組んでいます。

応募に当たっての注意

オープンゼミは実施しません。ゼミ説明会への参加は任意(自由参加)ですが、教員と相談したい場合には、メールにてご連絡ください。個別の相談も歓迎します。

講義題目の「経済地理学」の内容について詳しく知りたい場合は、以下の文献を参考にしてください。九大図書館で閲覧可能です。

- ・経済地理学会編(2018):『キーワードで読む経済地理学』, 原書房.
- ・経済地理学会編(2024):『経済地理学事典』, 丸善出版.

経済・経営学演習 (堀井 伸浩 ゼミ)

授業科目名	経済・経営学演習		講義題目	中国産業の実証分析	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード		
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	堀井伸浩	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	特になし。		キーワード	中国経済、日中産業比較、実証分析、フィールドワーク	
全体の教育目標	論理実証主義に基づいた研究分析手法を習得。また中国人留学生とのグループ研究を通じ、生きた中国理解を促す。		個別の学習目標	中国の産業分析を通じて、中国の経済発展の動態に関する知見を得る。	
授業の概要					
<p>本講義の教育目標は「仮説に沿ってデータを収集・加工し、分析結果をプレゼンテーションする能力」を学生諸君に身に付けてもらうことである。ゼミを通じ、仮説を導き、それをデータで裏付ける科学的な論理実証主義手法を習得できるように、授業計画を考案している。こうした分析能力は研究者を目指す学生諸君はもとより、社会に出て実務に携わる諸君にも有用なスキルとなると確信している。また躍動する中国経済についての実践的な知識の習得も目指す。</p> <p>ゼミ活動はグループ研究を主軸に進める。R7年度は「航空産業」「EV充電産業」「化粧品産業」「アニメ産業」「カフェ産業」「建設業」「イノベーションインフラ」などのテーマについてグループ研究を行っている。新たにゼミに入る新3年生は上記の現在動いているグループのテーマに捉われることなく、自らの希望に沿って新たなグループを立ち上げることを奨励している。なおゼミは3-4年合同で行う。</p>					
授業計画					
3年次：					
4月～7月 オリエンテーション、中国経済・産業分析・グループ研究の設定テーマに関連する文献の輪読					
8月 ゼミ合宿に向け、グループごとにリサーチワークに関するコンサルテーション					
11月 ゼミ合宿（国内2泊3日）					
12月 北澤・鷺崎・水野ゼミとの研究発表会					
4年次：					
4月～7月 学生諸君と相談して決める					
8月 卒業（ゼミ）論文作成に向けたコンサルテーション					
9月 ゼミ研修旅行（詳細は3年次の説明を参照）					
11月 ゼミ合宿にて卒業（ゼミ）論文構想発表					
11月以降、随時卒業（ゼミ）論文指導					
12月 神戸大学梶谷ゼミとディベート討論会					
授業の進め方			教科書及び参考図書		
学生諸君の発表、討論が中心。課外活動（ゼミの準備やゼミ合宿）もあり、原則出席が求められる。			適宜、別途指定する。		
試験・成績評価の方法等			その他		
平常点を50%、研究発表や卒業（ゼミ）論文を50%で評価。			演習参加申込を行い、受講を認められた学生だけが登録できる。		

ゼミの企画、その他特記事項

- 1) ゼミは週1回の本ゼミと不定期開催(おおむね月に1回)のグループごとにリサーチに必要な文献を輪読するサブゼミで進められる。アウトプットは、ゼミ合宿時のパワーポイント、卒業時に作成するゼミ論文となる(いずれもグループワークによる共同作成)。
- 2) ゼミ合宿は国内で2泊3日で行うのが通例である。リサーチ成果の報告を行う真面目な合宿であるが、グランドゴルフをやったり、アフターゼミも色々と思い出深いものがあります。
- 3) 北澤・鷺崎・水野ゼミと共同研究発表会を平成21年度より実施しており、R7年度も12月に実施予定。また神戸大学の梶谷ゼミとディベート形式のインゼミを実施している。

応募に当たっての注意

ゼミ選抜基準は志望理由重視です。このゼミに対して何を期待するか、自分は何を貢献できるか(売り込めるか)を記述して下さい。特に入ゼミの条件は設けておりません。

ゼミ説明会は入ゼミ後のミスマッチなどを未然に防ぐためにも極力参加してもらいたと思いますが、ゼミ説明会に参加していないことが選考に影響を及ぼすことはありません。ゼミ説明会に参加できなかった学生さんでゼミのことについて不明な点、聞きたい質問などがあれば遠慮なくメールを下さい。

なお、オープンゼミは実施しません。

経済・経営学演習 (鷲崎俊太郎ゼミ)

授業科目名	経済・経営学演習		講義題目	日本経済史と空間経済学	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード*		
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	鷲崎 俊太郎	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	経済史Iの履修が望ましい (未履修者は新年度に履修可)		キーワード	日本経済史・都市経済・長期経済分析	
全体の教育目標	現代都市の生活・経済の諸問題を、歴史的経緯と照らし合わせながら、分析できる能力を身につける。		個別の学習目標	ライブラリー、ICT、ロジカル・シンキング、プレゼンテーション、論文などリテラシーの養成	
授業の概要 ・徳川期～近代の日本経済について、現代の諸問題と照合しながら分析できる能力を身につけます。とくに、 都市 や 空間 、 土地不動産 における 社会経済メカニズムの発生源や問題の推移 などを、長期時系列的な視野を持って分析、検討していきたいと思っています。 ・通常のゼミは、①：テキストの輪読、②：半季に1度は校外に出かけてフィールドワーク (FW) , ③：①～②の成果をもとに各回のテーマに沿ったプレゼンテーション (PR) を行います。					
授業計画 3年次 【2025年度の実績】 4月 役職決め、輪読 5月 輪読、インゼミテーマ報告 6月 輪読、インゼミ前期中間報告 7月 インゼミ前期最終報告 9月 長崎合宿と鹿児島合宿を隔年で開催 (今回は、有田町：有田歴史民俗資料館・源右衛門窯・有田町役場、佐世保：ハウステンボス・浦頭引揚記念資料館、海上自衛隊佐世保史料館などを見学。) 10月 輪読、インターゼミ向けリハーサル、 11月 八大学インターゼミ (今回の組合せは、昭和女子大学櫻木ゼミ、西南学院大学小野寺ゼミ、長崎大学南森ゼミ、山形大学安部ゼミ)、東京合宿 12月 4ゼミ合同発表会 (堀井・北澤・水野ゼミ) 1月 輪読、ゼミ論文制作、卒論テーマ発表 4年次 【例年の実績 (オンライン・対面にかかわらず)】 卒論制作：テーマ発表→資料・データ収集→第1回中間発表 (7月) →第2回中間発表 (11-12月) →最終発表 (1月) →提出					
授業の進め方 ※演習方式を基本とします。 ・輪読・PR…報告者にレジュメの作成を、聴衆者に議論の推進を求めます。 ・FW…博物館・工場などを見学します。 ※2025年度につきましても、 対面式でゼミを重視 しつつ、 毎週オンライン設定を行う ので、当日ちょっと体調が悪いという学生、帰省している学生、あるいはゼミ直前・直後に用事のある学生などには、遠隔式で参加できるよう配慮したいと思います。			教科書及び参考図書 【教科書：来年度使用予定のテキスト】 ・まだ決めてはおりませんが、日本経済史の通史的なテキストを輪読していきたいと思えます。		
試験・成績評価の方法等 ・出席状況 (議論や校外学習への参加を含む、50%) ・PR・論文に対する評価 (50%)			その他 演習参加申込を行い、受講を認められた学生だけが登録できる。		

ゼミの企画、その他特記事項

1. 「たかが4単位 されどゼミ」

「ガクチカ」, 「コミュニケーション」を, めっちゃ付けさせます! その要素は, ①輪読のディスカッション, ②プレゼンテーションの仕方, ③就活時のOBOGとのコンタクトなどにあります。

歴代ゼミ生数	合計	主演習	副演習 副専攻	男子	女子
2009-13年(1-5期)	48	37	11	30	18
2014-18年(6-10期)	59	47	12	39	20
2019-23年(11-15期)	46	39	7	36	10
2024年(16期)	11	11	0	9	2
2025年(17期)	10	10	0	7	3
2026年(18期)	今回	募集中			

2. 関心と交友の広がる副演習・副専攻

鷺崎ゼミでは, 学生自身の興味・関心と専門領域の幅を広げるために, 副演習の希望者と, 人社系副専攻プログラムの利用者を, 心から歓迎します。主演習に他のゼミを選びつつ, 副演習として鷺崎ゼミを選択することで, 主演習の専門領域をクロノジカル(長期時系列的)に考える思考力が養成されます。また, ゼミ友も2倍に増えます。さらに, 他学部から人社系副専攻プログラムを利用して, 鷺崎ゼミに参加する方も少なくありません。(これまで, 文学部の日本史学・考古学・独文学研究室から1名ずつ参加していました。)

3. 就活への対応には, ゼミ OBOG が学生に力を相当貸してくれます!

鷺崎ゼミ生の就活では, まず①志望する業界や企業・公務に勤務するゼミ OBOG に, コンタクトをとる限り, とっていきます。鷺崎ゼミには, 120人を超える OBOG が国内外で活躍しており, 就職先の業界もバラエティーに富んでいます。(入ゼミパンフレットの「就職先」を参照。)②コンタクトをとったゼミ OBOG は, 直接での対面はもちろん, Zoom や LINE で随時, 相談・話し相手になってくれます。エントリーシートの書き方を学ぶ学生もいました。インターンや会社説明会では言えない, 聞きづらい本音を会話し合っています。③その OBOG から, さらに社内外のお友だち・先輩・後輩を紹介してもらっています。ゼミ OBOG も, 新卒時に同じような就活をしていたので, ほかのどんな就活生よりも親身になって, あなたの将来を考えてくれます。

4. ゼミは, 将来の結婚相手が見つかる場でもあります!

不思議なことに鷺崎ゼミではゼミ同級生同士の結婚が, 9年間で4組も誕生しました(公認の情報のみ)。学生時代にあれこれ意見をぶつけ合い, しょっちゅう会話を繰り返して, 尊敬しつつ, お互いの短所も理解し合っているからこそ, 生涯の伴侶を誓い合えるご縁があったのだと思われます。(披露宴での祝辞より。)

5. 就職前に歴史を学べるラストチャンス! 暗記しない日本経済の推移を一緒に学ぼう!

志望する業界や企業の成り立ちを知っていますか? 留学や海外出張へ行って, 相手地域の社会経済や文化を学んでも, 日本のそれを説明できますか? そもそも, なぜいま自分がそこに存在するか, 把握できていますか? 共通テストの地歴・公民で世界史・地理選択だった方々, 大歓迎! 学部横断的に繋がりを持つゼミです。たとえ歴史が苦手でも, 必ずやそのアレルギーを解消させて, 経済学を楽しくさせてみせます。

応募に当たっての注意

- ① ゼミの現役学生と教員が一丸となって, [入ゼミ用YouTube「鷺崎ゼミちゃんねる」](#)を作りました。「副演習履修の意義」や「就活におけるゼミの存在と重要性」, 「フィールドワーク(校外学習)やインゼミ(他のゼミとの研究発表会)のおもしろさ」などなど, ゼミ生と教員が語っていますので, **ぜひご覧ください!**

Search on Google now!

- ② **入ゼミ用パンフレット**: [ゼミナール関連情報サイト](#)へ, 11月下旬に今年度版の掲載を予定しています。
- ③ **入ゼミ説明会**: ゼミ時間中に対面で2回実施します。現役ゼミ生との懇親を図り, 質問・相談に応じます。**12月4日(木)5限, 18日(木)4限**…どちらも, 教員・ゼミ生説明, 3年生のプレゼンテーション, 座談会
- ④ 入ゼミ希望者には, 「**演習参加申込書**」提出後に**現役ゼミ生&担当教員との面談**を実施します(オンライン可)。何か疑問・質問がありましたら, shuntaro@econ.kyushu-u.ac.jp宛に, メールを送信して下さい。

経済・経営学演習 (北澤 満 ゼミ)

授業科目名	経済・経営学演習		講義題目	日本の経済社会について、長期の時間軸で考察する	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード	—	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	北澤 満	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	推奨基本科目「経済史Ⅰ」を履修済であることが望ましい		キーワード	経済史、経営史、産業史、文献・情報検索、文章作成	
全体の教育目標	現代社会経済の諸問題について経緯を踏まえつつ、幅広い視点で分析する能力を養う。グループ・ワークなどの共同作業を通じ、社会性を涵養する。		個別の学習目標	情報・文献検索、レポート・論文等の作成、および各種プレゼンテーションなど、文系の大学生(大卒)として必要とされる技術、および正しい意味での教養を獲得する。	
授業の概要					
<p>近現代日本の社会経済に関して、諸産業・諸企業の盛衰、企業家、および背景となる文化・制度・慣習などに焦点を当てつつ、幅広く学習します。まずは初学者向けの平易な文献からはじめ、「個別の学習目標」に掲げた諸技術を習得しつつ、グループ・ワーク、個別の研究報告へと進んでいく予定です。</p> <p>当ゼミの最大の特色は「懐の深さ」です。「教育目標」に掲げた「経緯を踏まえた分析」にさえ留意してもらえれば、時期・対象のいずれについても、狭く限定することはありません。また、狭義の「経済史」、さらには「経済学」といった枠にとらわれず、政治・教育・文化(食生活・芸術・スポーツ・サブカルチャーなど)といった隣接分野に関しても、積極的に越境していきます。</p> <p>通常のゼミは、テキストの輪読(テキストの内容について報告の後、全体で議論します)、個人・グループの報告(経済成長と公害の発生、食文化の変容などといったトピックに関して、または経営者・思想家など人物に関して、テーマを設定)が中心ですが、「文献検索」・「レポート作成」のような各種ワークショップや、下記のようなイベントを開催する場合があります(参加者の希望により、予定は随時変更していきます)。なお、通常のゼミは3・4年生合同で行います。</p>					
授業計画					
<p>第1回 ガイダンス。当年度のゼミ計画を立案します。</p> <p>第2回以降 テキストの輪読や、各自の報告を中心に行います。ほかに、下記のような企画を予定しています(最終的な決定については、ゼミ生の意思を尊重します)</p> <p>4~5月 文献検索ワークショップ</p> <p>9月頃 他大学とのインゼミ</p> <p>12月 インゼミ(堀井・鷺崎・水野ゼミと合同)</p>					
授業の進め方			教科書及び参考図書		
<p>基本的には、演習方式です。参加者には、楽しく議論するための準備が求められます。</p>			<p>【教科書】今年度は、武田晴人『事件から読みとく日本企業史』などを使用しました。次年度のテキストは、新3生とも相談のうえ、決定します。</p> <p>【参考書】随時、指示します。</p>		
試験・成績評価の方法等			その他		
<p>出席状況(30%)、報告内容・議論への参加(40%)、ゼミ論文・グループ論文の評価(30%)</p>			<p>演習参加申込を行い、受講を認められた学生だけが登録できます。</p>		

ゼミの企画、その他特記事項

工場見学のようなアカデミックなイベントのほか、飲み会、鍋会などもゼミ生の希望に応じて行ってきましたが、正規授業以外は、原則として希望者のみの参加です。また、学生の希望がなければ、そうしたイベントを無理強いすることはありません。総じて、コアとなる学習の部分を確認することは必須ですが、ゼミを今後の大学生活の中心とするか、それとも一部分とするかは、参加者の意思にお任せします。

応募に当たっての注意

- ・選考について、1次募集では、それほど成績を重視しません(推奨基本科目についても同様)。すべての面で、現時点での知識量(高校において、日本史履修をしたかどうかなど)も関係ありません。本の読み方、文章の書き方からテーマ設定まで、丁寧に指導します。自分を向上させていこうという気持ち、少しずつでも社会を変えていこうとする意欲があること、これが最大の参加条件です。受け入れに余裕がある場合、それほど厳しく選抜する予定はありません。
- ・「色々と勉強したいという意欲はあるが、まだやりたいことが固まっていない、見えない」という皆さん、応募を歓迎します。当ゼミでの学習のなかで、それは見つけられるはずです。
- ・ゼミ説明会は2回行います。どちらも同じ内容なので、1回出席するのみで結構です(ただし、教員や現ゼミ生とより長く話したい、などの事情があれば、2回出席しても問題ありません)。選抜が必要な場合、説明会への出席が最重要項目なので、この点ご注意ください。ただし、都合によって2回とも出席できないという場合は、別途教員と個別に面談することで、説明会出席と同様に措置します。
- ・ゼミ活動については、Instagram、Facebookもご覧ください。いずれも「九州大学 北澤ゼミ」で検索すればヒットします。「公開」設定なので、アカウントがなくても閲覧できます。
- ・詳細なゼミ募集に関する情報は、moodleのゼミ募集ページで流します。

<https://moodle.s.kyushu-u.ac.jp/course/view.php?id=33069>

経済・経営学演習

(左近 幸村 ゼミ)

授業科目名	経済・経営学演習		講義題目	グローバルヒストリーを学ぶ	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード	—	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	左近幸村	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	経済史Ⅱ		キーワード	工業化、グローバル化、近代	
全体の教育目標	学術文献を読めるようになる。現代のグローバル化の起源を考察する。		個別の学習目標	経済史に関する論文を書けるようになる。	
授業の概要 グローバルヒストリーと呼ばれる経済史の文献を読み、議論する。グローバルヒストリーと言っても中身は多様だが（この言葉は濫用されているきらいもある）、以下のトピックを扱うことを考えている。 <ul style="list-style-type: none"> ・産業革命をめぐる論争。その起源と影響。 ・西洋経済史とアジア経済史の比較。 基本的に日本語の文献で進める予定だが、英語論文を配布することもありうる。					
授業計画 初年度に取り上げる本の候補。 <ul style="list-style-type: none"> ● 長谷川貴彦『産業革命（世界史リブレット116）』（山川出版社、2012年） ● 斎藤修『比較経済発展論：歴史的アプローチ』（岩波書店、2008年） ● Tirthankar Roy & Giorgio Riello eds., <i>Global Economic History</i> (Bloomsbury, 2019)より 					
授業の進め方 輪読形式の予定			教科書及び参考図書 【教科書】 上記参照 【参考書】 上記参照		
試験・成績評価の方法等 授業における報告、コメント。 長期休暇時のレポート。			その他 演習参加申込を行い受講を認められた学生だけが登録できる。		
ゼミの企画、その他特記事項 教員は下戸なので、飲み会を企画することはない。合宿も予定しておらず、「濃い」ゼミを期待する人には不向き。 担当教員は、2026年5月29日～31日に国際学会を開催するので、手伝いを要請する可能性がある。					
応募に当たっての注意 <ul style="list-style-type: none"> ● ゼミ説明会への参加は必須ではない。メールでの相談や、アポを取った上で研究室に来るのも可。 ● 申請書に記載してほしい情報： 「なぜ外国の歴史を学ぶのか」というテーマで、自身の経験や読書遍歴を踏まえながら、1000字程度で書いてください。成績よりも志望理由を重視します。 					

経済・経営学演習 (大坪ゼミ)

授業科目名	経済・経営学演習		講義題目	経営財務の基礎	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード		
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	大坪 稔	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	経営学 I・II		キーワード	資金調達、キャッシュフロー、株価	
全体の教育目標	経営財務を中心として、企業経営について幅広く学習します。		個別の学習目標	財務の側面から企業活動について理解・評価することができるようになること	
授業の概要 3・4年生合同でゼミを行う。「経営財務」とは資金の調達や運用など、企業経営のうち資金に関する分野を対象とした学問である。たとえば、企業にはどのような資金調達の手段があるのか？(株式市場から調達するのか、あるいは銀行から借り入れるのか？)そして、調達した資金を複数ある投資案件のどれに投下するのか？(複数ある投資案件のなかからどの投資案を実行するのか？)といった問題について学習していきます。					
授業計画 第一回 ガイダンスと参加者の自己紹介 第二回 ゼミの実施					
授業の進め方 あらかじめ報告者を決めておき、報告者にテキストの内容を報告してもらった後、他の参加者から質問をしてもらい、その質問内容について討議していく。			教科書及び参考図書 【教科書】 未定 【参考書】		
試験・成績評価の方法等 平素の出席を前提とし、発言および課題提出で評価			その他 演習参加申込を行い、受講を認められた学生だけが登録できる。		
ゼミの企画、その他特記事項 <ul style="list-style-type: none"> ・4月に新歓合宿(1泊)、夏季休暇中にゼミ合宿(2泊)があります。 (HPを参照:http://www.econ.kyushu-u.ac.jp/~otsubo/) ・テキスト報告と並行して、実際の企業の財務データを基に企業分析を行っていただきます。 ・3年の夏季休暇中に、3-5名程度のグループで、CFA協会 Research Challengeに参加していただきます。 ・3年の後期に、各自でテーマを定め、ゼミ論を書いていただきます。 ・4年の後半に就職内定先の企業・業界を対象とした論文を書いていただきます。 					
応募に当たっての注意 登録を希望する学生は、できるだけ説明会に出席してください。なお、他の講義への出席などの「正当」な理由で説明会へ出席できない学生は、事前にメール(otsubo@econ.kyushu-u.ac.jp)にて連絡をしてください。その場合は個別に対応します。 選抜が必要な場合は、説明会への出席の有無や書類選考により選抜を行います。					

経済・経営学演習 (岸野 早希 ゼミ)

授業科目名	経済・経営学演習	講義題目	人的資源管理		
授業科目区分	選択必修科目	授業科目コード	—		
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	岸野早希	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	経営学 I ・ II	キーワード	人的資源管理、組織行動		
全体の教育目標	専門知識を活かして物事を様々な角度から考えられるようになること	個別の学習目標	企業経営における「ヒト」という経営資源の重要性を理解すること		
授業の概要					
<p>このゼミでは人的資源管理論や関連分野である組織行動論、経営組織論を中心とした研究を行っていきます。3年次には教科書の輪読やチーム研究を通じて卒業論文に向けた専門知識の習得や研究方法を学びます。また、これらの活動を通じて卒業論文につながるテーマを見つけてもらい、4年時にはそのテーマに基づいた卒業論文に取り組んでもらいます。</p> <p>通常は3・4年別で実施しますが、夏休みゼミや卒論報告会、親睦会等は3・4年合同で実施します。</p>					
授業計画					
<p><前期>第1回 ガイダンス、第2回～ 指定図書の輪読、チーム研究</p> <p><後期>合同ゼミに向けたチーム研究、卒業研究</p>					
授業の進め方			教科書及び参考図書		
<p>前期：指定図書の輪読が中心</p> <p>後期：チーム研究、発表準備が中心</p>			<p>【教科書】</p> <p>鈴木竜太・服部泰宏編著(2019)『組織行動：組織の中の人間行動を探る』有斐閣</p> <p>上林憲雄・厨子直之・森田雅也(2018)『経験から学ぶ人的資源管理』有斐閣</p> <p>小宮あすか・布井雅人(2024)『Excel で今すぐはじめる心理統計 第2版 簡単ツール HAD で基本を身につける』講談社</p> <p>【参考書】</p>		
試験・成績評価の方法等			その他		
<p>出席、課題への取り組み、ゼミへの貢献を総合的に評価します。</p>			<p>演習参加申込を行い、受講を認められた学生だけが登録できる。</p>		
ゼミの企画、その他特記事項					
<ul style="list-style-type: none"> ・他大学との合同ゼミを実施しますので、授業時間外での活動や遠征費が発生します。 ・卒業論文を書きます。 					
応募に当たっての注意					
<ul style="list-style-type: none"> ・ゼミへの参加を希望する場合は必ずゼミ説明会へ出席してください。説明会はハイフレックスで開催する予定です。(※説明会が授業と重複する場合は、メールをいただければ資料を共有します。) ・オープンゼミはありませんが、どのような研究をしているか関心のある方は 11 月 26 日(水)に開催される 					

経済学部・学府合同ポスター報告会にてゼミ生が報告しますので、是非参加してみてください。

- ゼミの志望理由書については「なぜ本ゼミに参加したいのか、将来どのようなキャリアを考えているか」という点を必ず含めて作成してください。
- 応募多数の場合は面接をしますので、申込書に必ず連絡がとれるメールアドレスの記載をお願いします(※面接はオンラインで実施予定)。
- 経営学Ⅰ・Ⅱを受講していることが望ましいです。
- ゼミ説明会に関する Zoom 情報等は Moodle の「2025 年度通年・火 4 火 5・経済・経営学演習③_3 年生 (岸野 早希)」の第 15 回に記載する予定ですので、ご確認ください。

経済・経営学演習

(加納 拓和 ゼミ)

授業科目名	経済・経営学演習		講義題目	戦略経営	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード*	—	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	加納 拓和	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	経営学Ⅰ・経営学Ⅱの履修が望ましい		キーワード	経営学、戦略経営、国際経営、企業家精神	
全体の教育目標	経営学に関する研究活動を通じて、複雑な経営現象を客観的に説明、理解するための「ものの見方」や「考え方」を培う。		個別の学習目標	<ul style="list-style-type: none"> 戦略経営論の主要な概念や理論を習得する 理論に基づいて現実の現象を客観的に説明することができる 説得的に自らの主張を展開できるようになる 	
授業の概要 本ゼミの研究テーマは戦略経営です。今日の技術や市場が目まぐるしく変化する事業環境においても高いパフォーマンスを発揮し続ける企業が観察されています。こうした企業の持続的競争優位の源泉を解明することが戦略経営論における中心的な課題です。企業の競争力の規定する要因や企業が策定、実行する戦略は多岐にわたるため、戦略経営論のテーマも広範に及びます。本ゼミでは戦略経営論を網羅的、体系的に学習するとともに、グループ研究や卒業研究を通じてゼミ生の関心のあるテーマについて深掘りしていきます。					
※本ゼミでは受講者の興味関心を最大限尊重します。3年次のグループ研究、4年次の卒業研究においては戦略経営以外のテーマでも構いません。					
授業計画 ◎3年生の学習内容 <ul style="list-style-type: none"> 戦略経営論や経営学全般に関わる書籍や研究論文を輪読方式で読み進め、知識の習得を図ります。 グループ研究も並行して行い、研究の一連のプロセス（テーマ決定、先行研究の渉猟、分析、論文の執筆/研究報告）を経験してもらいます。インゼミ等を開催し、研究成果を積極的に公開します。 ◎4年生の学習内容 受講者が自ら決定した研究テーマに基づいて卒業論文を執筆します。定期的に中間報告を行い、担当教員や受講者間で議論しあうことで、4年間の集大成にふさわしい研究論文を書き上げます。					
授業の進め方 演習形式で授業を行います。			教科書及び参考図書 【教科書】 戦略経営論や経営学全般に関するテキストを適宜紹介します。		
試験・成績評価の方法等 参加、発言、課題の提出(合計で100%)			その他 演習参加申込を行い、受講を認められた学生だけが登録できます。		
ゼミの企画、その他特記事項 <ul style="list-style-type: none"> 懇親会やインゼミ等を行うことを想定していますが、必ずゼミ生と相談の上で各企画の開催を決定します。 何かにチャレンジする学生に対して最大限サポートします。留学される学生には Zoom 等を用いて遠隔指導を行います。また大学院を希望される学生には個別で指導します。 ゼミの活動や雰囲気についてはゼミ生管理の Instagram (kanou_zemi) をご参照ください。 					

応募に当たっての注意

- ゼミ説明会は必須ではありませんが、ミスマッチを防止するために参加を強く推奨します。
- 何らかの事情でゼミ説明会に参加できなかった場合、メールでの相談、問い合わせも受け付けています。
kano@econ.kyushu-u.ac.jp
- 上記の学習方針に基づいてゼミを運営するため、一定の課題が発生します。また、グループ研究や卒業論文を進めるためには、かなりの時間と労力が必要になります。時間外の学習を厭わず、意欲をもってゼミに取り組むことができる方の受講を望みます。
- ゼミは教員と一緒にゼミの運営を作り上げていく共同体だと認識しています。ゼミの運営にも貢献意欲をもって関与してくださる方を歓迎します。

経済・経営学演習

(大石桂一 ゼミ)

授業科目名	経済・経営学演習		講義題目	企業会計	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード	—	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	大石桂一	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	会計学Ⅰ・Ⅱを履修していること		キーワード	会計、財務諸表、企業分析	
全体の教育目標	会計情報を使いこなせるようになること、グループ・ワークができるようになること、およびプレゼンテーションとディスカッションの能力を高めること。		個別の学習目標	財務会計の制度と理論を理解したうえで、企業を分析する力を養うこと。	
授業の概要 本演習では、会計を有用な道具として使いこなせるようになることを目標としている。そのためには、まず、会計制度とその背後にある理論を理解することが必要である。プレーを楽しむためには、ある程度はルールを学ばなければならないからである（つまり「ルールの学習」と「実際のプレー」とのバランスが重要なのである）。そのうえで、実際に会計情報を使って様々な分析を行う。 また、ゼミは基本的に3・4年生合同、2コマ連続で行う予定である。なお、必要に応じてサブゼミを行うこともある。					
授業計画 前期は、基本的なテキスト（受講者と相談の上で決定する）をもとに、財務会計の制度と理論について理解し、後期にはそれを応用して具体的な分析・研究を行うことを考えている（グループ・ワーク）。後期の具体的な分析・研究内容については、受講者の理解と関心に応じて決定する。 また、年度末には各自あるいはグループでの分析・研究の結果をゼミ論文にまとめてもらう。					
授業の進め方 あらかじめ報告者（グループ）を決め、プレゼンテーションとディスカッションの形式で行う。			教科書及び参考図書 教科書・参考書は受講生の関心等を勘案し、相談のうえ決定する。		
試験・成績評価の方法等 平素の成績（プレゼンテーションのレベル、ディスカッションの内容と積極性、および勤勉性）と年度末のゼミ論文で評価する。			その他 演習参加申込を行い受講を認められた学生だけが登録できる。		
ゼミの企画、その他特記事項 <ul style="list-style-type: none"> ・本演習では学生による自主的な運営を旨とする。テーマや分析対象の選定、ゼミ合宿や飲み会の企画、学園祭への参加、インゼミの開催、および工場見学や企業訪問の計画など、自由に意見を出し合って、相談してほしい。その際に私はアドバイザーとしての役割を果たす。 ・年度末のゼミ論文（個人で書いてもよいし、グループで書いてもよい）の提出は必須とする。 					
応募に当たっての注意 <ul style="list-style-type: none"> ・オープンゼミは実施しない。 ・受講希望者はゼミ説明会には必ず参加すること。授業との重複など、正当な理由により参加できない場合は、メールにて連絡のうえ(oishik@econ.kyushu-u.ac.jp)、指示を仰ぐこと。 ・希望者多数の場合は、申込書に基づき選抜する。選抜に当たっては志望理由を重視する。 ・推奨基本科目(会計学Ⅰ・Ⅱ)の履修(単位取得ではない)を応募の条件とする。 					

経済・経営学演習 (小津ゼミ)

授業科目名	経済・経営学演習		講義題目	会計学の基礎を学ぶ	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード	—	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	小津 稚加子	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	会計学ⅠまたはⅡを履修していること		キーワード	財務会計、財務報告、グループワーク	
全体の教育目標	財務諸表の読み方・解釈の仕方の基礎を学び、学部レベルの専門的な文章力を身につけ、プレゼンの仕方を習得する		個別の学習目標	① 企業の財務報告の仕組みを理解する ② 修了研究を作成する	
授業の概要					
<p>財務諸表を読み、財務報告の仕組みが理解できると、企業社会が見えてきます。この演習では、将来、身近な上場企業が公表する会計情報を読み、企業の戦略、リスクやリターンについて理解できるようになることを目標に、その基礎となる財務会計の制度を学習します。1年を通して、ゼミ生が少しずつ学習成果を実感できるようにします。</p>					
授業計画					
<p>1年間を3つのサイクルに分けて学習を進めます。第1サイクル（前学期：4月から6月）では、財務会計に関する基本テキストを輪読し、基礎を身につけます。グループワークです。第2サイクル（7月）では、基礎学習の復習と修了研究のテーマ決め、合宿、インゼミに向けての意見交換、をします。第3サイクル（後学期）は、修了研究を進めます。各自やりたいテーマを掘り下げるひと、グループワークをするひと、1冊本を決めて書評を書くひともあります。1年間の学習の成果は、インゼミで口頭報告し、最後に修了研究報告書にまとめます。</p>					
授業の進め方			教科書及び参考図書		
<p>3・4年生混合でグループ分けをします。順番に、報告班、質問班、司会班を持ち回ります。レジュメおよび質問は、原則、3日前までに提出ボックスに入れます。事前準備が必要です。</p>			<p>【教科書】辻山栄子編著『財務会計』中央経済社</p> <p>【参考書】Moodleで適宜、紹介します。</p>		
試験・成績評価の方法等			その他		
<p>出席を前提とし、平素のゼミ活動（予習、発言、貢献度）と修了研究を考慮して総合的に判断します。</p>			<p>演習参加申込を行い受講を認められた学生だけが登録できる。</p>		
ゼミの企画、その他特記事項					
<ul style="list-style-type: none"> ・年2回、コンパ、食事会をします（新歓と追い出し）。 ・卒業生は、国家試験（税理士、公認会計士等）、就職活動、留学、部活、サークルをしながら、自分がやりたいこととゼミ活動を両立してきました。 ・ゼミ合宿および他大学とのインゼミ、修了報告書の執筆は、大切なイベントです。 <p>※ゼミ卒業生（学部、大学院）の進路は、ゼミ説明会で紹介します。</p> <p>※留学希望者・女子学生・大学院進学に興味がある人、歓迎します。</p>					
応募に当たっての注意					
<ul style="list-style-type: none"> ・ゼミ説明会には必ず出席し、分からないことは直接ゼミ生や教員に質問してください。 ・万一、出席できないときは、欠席理由を明記し、ozu@econ.kyushu-u.ac.jpへ連絡すること。 					

・ゼミ生の選抜にあたっては、次の事項を重視します。

- ① 会計学・財務報告の勉強を希望していること
- ② ゼミ学習と運営はグループ作業なので、同期生、先輩・後輩と仲良くできること
- ③ 無断欠席しないこと（就職活動やサークル活動がある場合でも、担当者と他のゼミ生に連絡）

経済・経営学演習 (潮崎智美ゼミ)

授業科目名	経済・経営学演習		講義題目	財務会計	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード	—	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	潮崎 智美	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	会計学Ⅰ、会計学Ⅱを履修していることが望ましい。		キーワード	会計学、財務会計、企業分析	
全体の教育目標	ビジネス・パーソンとなるのに不可欠な会計学の知識やスキルを習得することを目的としています。		個別の学習目標	財務諸表が読める。 企業を総合的に分析できる。	
授業の概要					
<p>本演習では、株主や債権者等の企業外部の利害関係者に対して報告をする「財務会計」を、新聞記事や雑誌記事などを多用して学習すると同時に、インターネットやデータベースなどを通じて収集した会計情報を分析する「企業分析」の手法を学びます。</p>					
授業計画					
<p>第1回目のオリエンテーションの後、前期は「財務会計」または「企業分析」領域の文献の輪読(3・4年生)を行います。後期、3年生は例年日経 STOCK リーグ (https://manabow.com/sl/) に参加して、バーチャル投資を行い、グループワークにより財務諸表分析をベースとした論文を完成させます。グループワークでは、インターネット情報、新聞・雑誌記事、図書館資料、データベースなどを用いて企業の財務情報および非財務情報を収集し、投資テーマを選定して分析対象企業を選択し、企業分析や業界分析を行います。4年生は、学生それぞれの進路に沿ったテーマを選択し、卒業論文を執筆します。前期は3・4年合同、後期は学年別に開催する予定です。</p> <p>ゼミ論文や卒業論文は、グローバル化が進むなかで、グローバル企業やローカルな企業がどのようなビジョンや戦略を持って企業活動を行い、どのような成果を挙げているかを重視したものとします。</p>					
授業の進め方			教科書及び参考図書		
<p>担当者によるテキストや研究内容の報告 ⇒ディスカッション</p>			<p>【教科書】令和8年度前期は下記のテキストの輪読を予定しています：伊藤邦雄(2024)『新・現代会計入門 第6版』日本経済新聞社。※4月に改訂版が出版される可能性あり。 令和7年度前期は、下記のテキストを輪読しました： 伊藤邦雄(2023)『企業価値評価 第2版』日本経済新聞社 【参考書】ゼミ内で指示します。</p>		
試験・成績評価の方法等			その他		
<p>出席状況、授業態度(ゼミへの関わり方や発言内容)、レポートなどにより評価します。</p>			<p>演習参加申込を行い、受講を認められた学生だけが登録できます。</p>		
ゼミの企画、その他特記事項					
<ul style="list-style-type: none"> ゼミ論文・卒業論文を作成し、報告してもらいます。 学生の自主性を尊重して、インターゼミ、企業訪問、講演会、交流会、ゼミ合宿、ゼミコンパなどの実施を決定します。 					
応募に当たっての注意					
<ul style="list-style-type: none"> オープンゼミは実施しません。 ゼミ説明会を実施します(場所日時は別途指示します)。参加必須ですが、やむを得ず参加できない場合には、その旨、メールで知らせてください。shiosaki@econ.kyushu-u.ac.jp 申込書には、簡単な自己紹介・自己PRに加え、大学生活においてこれまでに何をしてきたか、これから何をやる予定であるか、大学を卒業して何をやるつもりかを含めてください。 選考が必要な場合には、まず志望理由を重視し、成績も考慮したうえで決定します。 					

経済工学演習

(阿部貴晃ゼミ)

授業科目名	経済工学演習		講義題目	ゲーム理論	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード	—	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	阿部貴晃	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	特になし		キーワード	ゲーム理論	
全体の教育目標	他者に論理的に分かりやすくアウトプットできるようになる。他者の報告に対してコメントできるようになる。		個別の学習目標	ゲーム理論を専門的に学ぶ。モデルを作成して、社会的事象を分析し議論できるようになる。	
授業の概要 ゲーム理論を専門的に学習します。3年生はゼミメンバーで教科書を読み、それぞれが発表を行う形式（輪読）です。4年生は各自が興味を持った内容でゼミ論文を作成することを目標とします。今年度のゼミ生が第4期生です。できて間もない活力のある研究室です。皆様のご応募・ご協力をお待ちしています。					
授業計画 ゼミメンバーで相談して決定します。					
授業の進め方 各受講者が、それぞれの割り当てられたテキストの章を順々に発表します。発表者以外は質問とコメントをします。4年生はゼミ論文の進捗を報告します。			教科書及び参考図書 【教科書】 ゼミメンバーの興味に応じて決定します。 【参考書】		
試験・成績評価の方法等 平素の成績で評価します。			その他 演習参加申込を行い受講を認められた学生だけが登録できる。		
ゼミの企画、その他特記事項 ゲーム理論を用いて、自分でオリジナルのモデルを組み立てて分析できるようになることを目指します。卒業時に、「大学でこのような研究をしていました」と言えるようになることを目標とします。進んで学習したい方にはサブゼミを開催していて、学生2,3人＋阿部で会話しながらより進んだ内容を習得できます。私はお酒を飲みませんが、飲み会・遊びのイベントなどはゼミ生の希望に応じて開催しています。3・4年生の二年間履修することを前提とします。					
応募に当たっての注意 「ゲーム理論に関心がある」「楽しく議論できる」方を募集しています。また、大学院に進学したい方も歓迎します。お出かけや飲み会など各種イベントを取り仕切ってくれる方も歓迎します。 ゼミ説明会は2回実施しますので、どちらかには参加してください。 ゼミ説明会に参加できなかったが応募したいという場合はメール takaakiabe@econ.kyushu-u.ac.jp にてご相談ください。また、個別の相談や問い合わせも、メールにて受け付けています。					

経済工学演習

(藤田 敏之 ゼミ)

授業科目名	経済工学演習		講義題目	環境経済学とゲーム理論	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード	—	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	藤田 敏之	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	積極的に学び、協調性のある人。数理的思考が好きな人。		キーワード	環境規制、外部性、環境評価、資源、廃棄物、非協力ゲーム、戦略、均衡	
全体の教育目標	環境経済学、ゲーム理論を深く学ぶ。報告を行い他人の報告を聞くことによって効果的なプレゼンテーションの仕方を学ぶ。		個別の学習目標		
授業の概要 環境経済学とゲーム理論の入門から中級までの内容を学ぶ。3年ゼミでは教科書を読み、環境経済学とゲーム理論の基本的内容をしっかり身につける。4年ゼミでは3年次の学習を踏まえて環境のゲーム理論的分析に関する論文や研究書を読み、専門的な分野にふみこんで学習する。現在のところ、3・4年ゼミは別々に行う予定である。ゼミ論文を課すことはしないが、年度末には全員にレポートを課す。					
授業計画 前期、後期ともにおおまかに以下の予定で進める。受講者数によって細かなスケジュールは変化する。 第1回・・・ガイダンス、自己紹介 第2回～第4回・・・教員による補足的講義 第5回以降・・・受講者による報告および討論（受講生1人につき各期最低1回の発表をお願いしたい。）					
授業の進め方 演習形式で行う。教員が講義をするのではなく、受講者の発表と討論によって授業を進めるので、報告者が責任をもった報告を行うことと受講者の積極的な参加を希望する。			教科書及び参考図書 【教科書】（予定） 大沼・柘植『環境経済学の第一歩』有斐閣 岡田『ゲーム理論・入門 新版』有斐閣アルマ 【参考書】 なし		
試験・成績評価の方法等 出席を重視する。欠席回数に応じた基本評価をもとに発表内容により調整する。詳細は説明会で説明する。			その他 演習参加申込を行い受講を認められた学生だけが登録できる。		
ゼミの企画、その他特記事項 本ゼミではすべての受講生が卒業時に胸を張って専門的な学習ができたと言えるようなレベルに達することを目指し、そのサポートをする。環境経済学やゲーム理論を究めたいという強い意欲をもつ学生と一緒に学んでいきたい。ゼミ生が将来自分の研究仲間となって、ともに刺激しあうというのが私の夢である。各種企画は受講生の意欲や希望に応じて検討する。					
応募に当たっての注意 オープンゼミの予定はありません。参加を希望する学生は、オンライン説明会に出席した後に申込書で以下を明記してください。1. これまでの学生生活、2. 環境経済学またはゲーム理論に対する想い、3. 趣味などについての特記事項、アピールポイント（任意）。全体で申請書のスペースの8割程度以上書いてください。ゼミ生を選考するにあたって、 成績よりも申込書の内容を重視します 。 やむを得ない理由で説明会に参加できない学生はmoodleのゼミ説明会ページで登録のうえ、公開される説明会動画を視聴してください。 説明会に参加しておらず、さらに動画の視聴もしていない学生には原則としてゼミ受講を許可しません 。質問のある方はメールアドレス tfujita@econ.kyushu-u.ac.jp まで連絡をお願いします。					

経済工学演習

(池下 研一郎 ゼミ)

授業科目名	経済工学演習		講義題目	財政とマクロ経済	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード	—	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	池下 研一郎	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	特にありません。		キーワード	マクロ経済学・公的部門・厚生経済学・税制・市場の失敗	
全体の教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 経済学的な視点から物事を分析的に考察できる。 ➢ プレゼンや対話, 論文執筆などを通じて, 自らのアイデアを効果的に表現できる。 		個別の学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 現代的なマクロ経済学のツールを理解し, 利用できる。 ➢ マクロ経済学の観点から財政に関する様々な考え方を説明できる。 	
授業の概要 市場メカニズムは、資源配分という観点において優位性を持つ一方で、市場の失敗や所得分配の不平等といった問題を生じさせる。公的部門はこれらの問題に対処しようとする一方で、政策に関する社会的な合意を得ることは容易ではない。本講義では、マクロ経済学的な観点を保持しつつ、公的部門による様々な政策や制度を検討する。なおゼミは3・4年別に行う。					
授業計画 マクロ経済学と財政（公的部門の経済活動）の基礎理論について学ぶ。具体的には①基礎的なマクロ経済学と財政の役割、②市場の機能と税制、③国債や年金制度の維持可能性、④経済成長と政府の役割といったテーマを取り扱う。また同時に経済分析に役立つ様々なツール（数学的ツール、コンピュータの利用など）についても説明を行う。後期には、ゼミでの学修内容を踏まえた上で、学術論文（3年生はゼミ論文、4年生は卒業論文）を執筆する。					
授業の進め方 報告者によるプレゼンテーションと参加者によるディスカッションを中心に授業を進めていきます。			教科書及び参考図書 【教科書】宮澤・焼田『財政学』新世社, 2019年 【参考書】後日、紹介します。		
試験・成績評価の方法等 ゼミでの報告, 議論での参加状況, 課題の提出, ゼミ論文をもとに評価を行います。			その他 演習参加申込を行い、受講を認められた学生だけが登録できる。		
ゼミの企画、その他特記事項 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 文献の読み方, 論文の書き方, プレゼンテーションの方法まで丁寧に指導します。 ➢ 通常のゼミ以外にも懇親会, 工場や日銀の見学など行いたいと思いますので積極的に参加してください。 ➢ ゼミでの学修は大変な部分もありますが, 講義とは違う充実感も体験できます。意欲的な学生の参加を期待しています。 					
応募に当たっての注意 <ul style="list-style-type: none"> ➢ ゼミ説明会への参加は任意ですが, できるだけ参加してください。ゼミについて質問がある場合には次のアドレスにご連絡ください(ikeshita@econ.kyushu-u.ac.jp)。 ➢ オープンゼミは実施しません。 ➢ 応募者が多数の場合には, 志望理由書の熱量を考慮して選抜します。 					

経済工学演習 (山崎 大輔 ゼミ)

授業科目名	経済工学演習		講義題目	データサイエンス・機械学習・計量経済学	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード	—	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	山崎 大輔	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	学習意欲があること。 ゼミに積極的に参加すること。		キーワード	統計学、計量経済学、機械学習、データサイエンス	
全体の教育目標	統計学の手法を理解した上で、実際のデータを用いた分析を行うことができる。 ゼミでの発表を通して、プレゼンテーション能力を養う。		個別の学習目標	データ分析に興味・関心を持つ。	
授業の概要					
<p>本ゼミでは、統計学・データ分析の手法を学び、各自で決めたテーマに関するデータ分析を行います。ゼミでは、統計学・計量経済学の手法に加えて、近年のデータサイエンス・機械学習において多く用いられているような、より実用的な分析手法についても学んでいきます。さらに、「R」や「Python」を用いた実習と、ゼミ生各自の興味のあるテーマについてのデータ分析を行います。なお、3・4年合同でゼミを行う予定です。</p>					
授業計画					
<p>前期：統計学・データ分析に関するテキストを読み進めます。 (2026年度はビッグデータ分析や機械学習に関連したテキストを用いる予定です。) これと並行して、コンピュータ・統計ソフトを用いた実習を行います。</p> <p>後期：ゼミ生各自の興味・関心のあるテーマについてのデータ分析を行います。 さらに、分析結果をゼミで発表して、レポートにまとめます。</p>					
授業の進め方			教科書及び参考図書		
<p>テキストの輪読や、コンピュータ・統計ソフトを用いた実習を行います。また、各自の興味のあるテーマについてのデータ分析を行い、分析結果をゼミで発表します。</p>			<p>【教科書】初回のゼミで話し合って決めます。 参考までに、これまでのゼミでは、 星野匡郎・田中久稔・北川梨津 『Rによる実証分析』第2版、オーム社 金森敬文『Pythonで学ぶ統計的機械学習』オーム社 照井伸彦『ビッグデータ統計解析入門』日本評論社 Stock and Watson “Introduction to Econometrics” (和訳：宮尾龍蔵 訳『入門 計量経済学』共立出版) などを用いました。</p> <p>【参考書】適宜紹介します。</p>		
試験・成績評価の方法等			その他		
<p>平素の成績（ゼミへの参加状況、ゼミでの報告、レポートなど）に基づいて成績評価を行います。</p>			<p>演習参加申込を行い受講を認められた学生だけが登録できる。</p>		
ゼミの企画、その他特記事項					
<p>ゼミの企画・イベント(懇親会など)については、ゼミ生と話し合っています。</p>					

応募に当たっての注意

本ゼミでは、オープンゼミは実施しません。

ミスマッチを防ぐため、本ゼミへの応募を考えている方は、できるだけゼミ説明会に参加してください。

ゼミ説明会の詳細については、2026 年度山崎ゼミ説明会の Moodle コース

<https://moodle.s.kyushu-u.ac.jp/course/view.php?id=68662>

に掲載します。ゼミ説明会への参加を希望する方は、上記 Moodle コースに登録してください。

都合によりゼミ説明会に参加できない場合は、山崎 (yamazaki@econ.kyushu-u.ac.jp) まで連絡ください。

なお、応募者が多い場合は、志望理由と成績に基づいて選抜を行います。

経済工学演習 (瀧本 太郎 ゼミ)

授業科目名	経済工学演習		講義題目	データサイエンス入門	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード	—	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	瀧本 太郎	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	事前の準備やゼミでの発言はもちろん、積極的にゼミ活動に参加することに加え、“知的好奇心”と“やる気”		キーワード	因果推論, 因果探索, 機械学習, R, Python	
全体の教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ✓統計的手法に基づく分析 ✓プレゼン能力を養う ✓グループ学習・研究・発表を通じ、広く社会性を養う ✓国際性と英会話力も少し ✓研究を楽しむ 		個別の学習目標	自分でテーマを見つけ、ゼミでの分析を通じて、データサイエンスの専門家としての自信をつけること	
授業の概要					
無料で配布されている統計ソフト「R」と「Python」を使って、様々な統計的分析手法とその応用例を学びます。特に、貪欲に知識を吸収し、データサイエンスに関する知識をこれからの人生における強力な武器にしたい人におすすめです。					
授業計画					
ゼミは3・4年生合同、2コマ連続の予定					
1. 前期：『Rによる実証分析 第2版』, 『因果推論』					
2. 前期最終日もしくは夏季：ゼミ論文（3年生）, 卒業論文（4年生）に向けたテーマの設定					
3. 後期：前期の残り, ゼミ論文・卒業論文の作成					
通年：各週に公表された統計データについての報告					
授業の進め方			教科書及び参考図書		
報告, 実習, 解説			【教科書】 1. 星野・田中（2023）『Rによる実証分析 第2版』, オーム社 2. 金本（2024）『因果推論』 オーム社 【参考書】 1. 原（2021）『Pythonによる経済・経営分析のためのデータサイエンス』, 東京図書 2. ストック・ワトソン（2016）『入門計量経済学』, 共立出版 3. 西山他（2019）『計量経済学』, 有斐閣 4. 藪谷（2007）『計量経済学大全』, 東洋経済新報社		
試験・成績評価の方法等			その他		
出席, 報告, 議論への参加, ゼミ論文（3年生）, 卒業論文（4年生）			演習参加申込を行い受講を認められた学生だけが登録できる。		

ゼミの企画、その他特記事項

- ゼミ論文や卒業論文の執筆を通じて、研究を楽しんでもらえたらと思います。もちろん大変なこともありますが、新しい発見に興奮する瞬間を一緒に味わいましょう。
- これまでゼミ合宿や他大学(京都大学, 山形大学, 兵庫県立大学, 創価大学, 国立台湾大学など)とインターゼミナールをしています。2026年度については皆さんと相談して決めたいと思います。その他、他ゼミと合同 BBQ やスポーツ大会などもしています。
- モザンビーク共和国, 中国, ソマリア連邦共和国出身の留学生がゼミで学んでいます。また、今までに15名の先輩が交換留学(フィリピン, フランス, イギリス, ドイツ2名, アメリカ2名, 台湾2名, シンガポール2名, スウェーデン, ベトナム, 中国, オーストラリア)に行っています。
- ポスドク1名, 専門研究員1名, 修士課程の学生が6名, 当ゼミで学んでいますので、積極的に院生の先輩と交流してもらえたらと思います。

応募に当たっての注意

- 選抜の際は、志望理由・成績をもとに総合的に判断します。
- 授業や就職活動等でゼミ説明会をやむを得ず欠席する場合は事前に相談してください。
- Moodle上で情報提供しますので、興味がある方は「2026年度経済工学演習(瀧本 太郎)に関する案内」のコース登録をお願いします。
- ゼミ説明会への参加は任意です。
- 12/8(月)14:50からE319でオープンゼミを行う予定です。お気軽に参加ください。

経済工学演習（村尾徹士ゼミ）

授業科目名	経済工学演習		講義題目	Pythonで学ぶ深層強化学習	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード		
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	村尾徹士	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	特になし		キーワード	Python, 機械学習 (人工知能)	
全体の教育目標	「作る」ことで理解する		個別の学習目標	各自で設定する	
授業概要					
<p>深層強化学習は機械学習（人工知能）の一分野です。コンピュータに試行錯誤を行わせながら、望ましい行動方針を自律的に学習させるための技術です。身近な事例としては、Amazon や Netflix の推薦システム、Uber のダイナミックプライシング、Meta のターゲティング広告などがあります。さらに、金融市場における自動取引や経済シミュレーションにも応用されています。現実世界では、「実際に試してみなければ結果が分からない」という状況が多く、深層強化学習はまさにそのような場面で威力を発揮します。</p> <p>ゼミは3・4年合同です。3年生は教科書の発表を行います。全体でのディスカッションやグループワークを通じて、教科書のプログラムを深く理解します。4年生は教科書の輪読にオブザーバーとして参加するとともに、深層強化学習を用いたプロジェクトを実施する予定です。</p>					
授業計画					
<ul style="list-style-type: none"> ● 【3年次】教科書 [1] を発表します。 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 強化学習の基本 (1-6章) → ディープラーニングの基礎 (7章) → 深層強化学習 (8-10章) ● 【4年次】深層強化学習を用いたプロジェクトを実施する予定です。 					
授業の進め方			教科書		
ゼミ形式の授業です。			[1] 『ゼロから学ぶ Deep Learning4 強化学習編』, 齋藤康毅 (著), オライリー出版。		
試験・成績評価の方法等			その他		
平常点で評価します。			演習参加申込を行い受講を認められた学生のみ登録可		
ゼミの企画、その他特記事項					
3年次に福岡女子大学（梶田ゼミ）とのインゼミを実施します。インゼミではグループに分かれて、ゼミの内容にとらわれずに自由にプログラムやアプリを製作します。					
応募に当たっての注意					
<ul style="list-style-type: none"> ● ゼミ説明会（ハイブリッド形式）は同内容で2回実施します。 ● 応募締切後に面談を実施する場合があります。 ● その他、ゼミ募集に関する全ての情報は Moodle コース「村尾ゼミ募集 2026」にて提供します。 <ul style="list-style-type: none"> ➢ コース URL : https://moodle.s.kyushu-u.ac.jp/course/view.php?id=68589 					

経済工学演習 (宮崎 毅 ゼミ)

授業科目名	経済工学演習		講義題目	財政と地方財政	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード*		
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	宮崎 毅	授業対象学生及び学年等	3年
単位数	4単位				
履修条件	特になし。		キーワード	財政、地方財政、税制	
全体の教育目標	理論と実証の経済分析手法を習得した上で、財政・地方財政・税制に関する問題を経済学的に議論できるようになることが目標です。		個別の学習目標	ゼミでの報告と議論を通じて、プレゼンや議論の能力を養います。グループ学習により、協調性を涵養するとともに、ゼミ生間での交流も図ります。	
授業の概要 本演習では、理論と実証における経済学の分析ツールを用い、財政や地方財政、税制に関する問題を経済学の知識に基づいて学習します。特に、経済理論と計量経済分析の知識を応用分析で使えるレベルまで高め、統計ソフトを使って各自で現実の財政や地方財政、税制を分析できるようになることが目標です。そのため、前期に計量経済学と統計分析ソフトRの学習を行い、後期に財政・地方財政・税制を学習します。ミクロ経済学を来年の前期に学習します。					
授業計画 ・通常、ゼミは3、4年別、または合同で実施しています 【前期】 第1回 ガイダンスと日程 第2回～第15回 計量経済学とR：星野 匡郎・田中 久稔『Rによる実証分析 一回帰分析から因果分析へ』で計量経済学と統計の基本、Rの使い方を学習します。統計、確率論、相関関係と因果関係、単回帰、重回帰、ランダム化実験、マッチング法、不連続回帰デザイン、操作変数法などを学習する予定です。また教科書に載っているRコードを使って、Rの導入や基本操作、Rによる回帰分析を学習します。 【後期】 (3年生) 第1回～第15回 財政・地方財政・税制：Rosen and Gayer, <i>Public Finance</i> を輪読し、財政や地方財政、税制を経済理論と実証の両面から学習します。					
授業の進め方 グループによる報告と討論形式で進めます。報告ではレジュメを用意して担当箇所を発表し、討論者及び全員で討論を行います。 教科書にRコードがある場合には、Rを使った演習も行います。			教科書及び参考図書 【教科書】 星野 匡郎・田中 久稔『Rによる実証分析 一回帰分析から因果分析へ』オーム社。 Rosen and Gayer, <i>Public Finance (9th)</i> , McGraw Hill. 【参考書】 授業中に、適宜指示。		
試験・成績評価の方法等 出席点、平素点（発表や討論、課題など）			その他 演習参加の申込を行い、受講を認められた学生だけが登録できます。		
ゼミの企画、その他特記事項 <ul style="list-style-type: none"> ・経済学をもう一度しっかり学習したい、Rを使った計量分析を行いたい、経済学に基づいて財政や地方財政を議論できるようになりたいという学生にお勧めのゼミです。 ・飲み会やOB会、ゼミ合宿、スポーツ大会も行いますので、これらの企画には積極的に参加しましょう。例年、ゼミ合宿(九重)を9月に、スポーツ大会を6月(浦川ゼミ、大西ゼミ、瀧本ゼミなど)に行っています。 					

応募に当たっての注意

- オープンゼミの日程(オープンゼミは自由参加とします。ただし参加していた方が選抜の際、有利です)
日時:12月18日16時40分~17時10分 場所: E-206 (ゼミの説明:10分、質疑応答:10分、ゼミの見学:10分)。
- 3年生は、3,4年続けて履修することを前提として履修してください。
- ゼミ説明会への参加を強く推奨します。ただし、やむを得ず参加できない学生については、事前にメールで連絡をするようにしてください。
- 授業の成績だけでなく、ゼミでの学習意欲を重視します。特に、財政や地方財政への強い問題意識を持っている学生を望みます。大学院、国家公務員や地方公務員志望の学生も、大歓迎です。応募者が比較的多い場合は、志望理由や成績によって選抜を行います。
- 3年或いは4年次に財政を履修することになります。
- 来年の前期にミクロ経済学を学習します。奥野正寛編『ミクロ経済学』で、消費者行動、生産者行動、市場均衡、ゲーム理論、不完全競争、外部性と公共財を学習する予定です。
- 4年生は、各自で卒業論文を執筆します。
- 連絡先: tmiyazak@econ.kyushu-u.ac.jp

演習参加申込書の提出方法(※提出にあたっては、教員が ■ と指示している提出方法に従うこと。)

- | | | | |
|-------|------------------------------|--|--------------------------------|
| 第1次募集 | <input type="checkbox"/> 手書き | <input checked="" type="checkbox"/> Wordファイル | <input type="checkbox"/> いずれも可 |
| 第2次募集 | <input type="checkbox"/> 手書き | <input checked="" type="checkbox"/> Wordファイル | <input type="checkbox"/> いずれも可 |

経済工学演習

(三輪 宏太郎 ゼミ)

授業科目名	経済工学演習		講義題目	行動ファイナンスと株式投資論	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード*	—	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	三輪 宏太郎	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	特になし		キーワード	投資家心理、株価形成	
全体の教育目標	金融の諸問題を、独自に調査・考察し、実務に耐えうる分析能力を身につける		個別の学習目標	投資家心理が、投資行動や資産価格形成に及ぼす影響を理解し、投資戦略に役立てる	
授業の概要 3年、4年別々にゼミを行います（3年は行動ファイナンス）。 3年前半部は、テキストを論読し、行動ファイナンスに関する知識を深めることに重点を置きます 後半部は、①教員が提示するケースに関する調査・分析②各人が独自で調査したケースについて発表&議論し、人間の心理がいかに関与し投資行動・価格形成に影響を与えるのか理解を深めていただきます。					
授業計画 (前期) 第1回 ガイダンス；ゼミの進め方と輪読・課題内容について 第2回以降 輪読発表 (後期) 調査・課題発表など ※適宜、金融に関するケーススタディの回などの場を設けます					
授業の進め方 基本的に、担当者の発表→質疑応答→教員の解説→課題の議論で進めます。			教科書及び参考図書 【教科書】 Ackert, Lucy, Deaves, Richard : Behavioral Finance: Psychology, Decision-Making, and Markets		
試験・成績評価の方法等 発表50% 議論への参加度50%			その他 演習参加申込を行い受講を認められた学生だけが登録できる。		
ゼミの企画、その他特記事項 ※担当教員は、実務家出身のため、実務的側面を重視した内容となります。 ※就職活動が前倒しになっている昨今の状況を鑑み、企画に関しては基本的に参加ゼミ生の自主性に任せます。					
応募に当たっての注意 ※説明会参加は必須ではありませんが、参加を強く推奨します。 ※説明会参加の場合、Moodle コース“三輪宏太郎ゼミ 2026 年度説明会”に登録してください。 ※志望理由を重視します。ゼミで学ぶ予定の内容をどのように生かしていきたいかを中心に書いてください い					

経済工学演習 (室賀 貴穂 ゼミ)

授業科目名	経済工学演習		講義題目	労働経済学演習	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード	—	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	室賀貴穂	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	ミクロ経済学・計量経済学・労働経済学の基礎を理解していることが望ましい。		キーワード	労働経済学、ミクロ実証分析	
全体の教育目標	労働経済学やミクロ実証分析に関する理解を深める。		個別の学習目標	ゼミでの活動を通じた能動的学習	
授業の概要 <ul style="list-style-type: none"> ● 教科書を輪読し、労働経済学で使用されている実証分析手法について理解を深める。 ● 労働参加・高齢化・教育・結婚等、労働経済学に関わる諸問題について理解を深める。 					
授業計画 教科書や学術論文を勉強する。					
授業の進め方 報告・討論			教科書及び参考図書 【教科書】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 山本勲(2015)「実証分析のための計量経済学」中央経済社(https://amzn.to/4nsElcK) ・ 浅古泰史・善教将大(編)(2025)「数理とデータで読み解く日本政治」日本評論社(https://amzn.to/46qrXbG) 		
試験・成績評価の方法等 平常点をもとに成績評価を行います。			その他 演習参加申込を行い受講を認められた学生だけが登録できる。		
ゼミの企画、その他特記事項 ゼミ生と話し合いの上、ゼミの企画を決めていきたいと思います。					
応募に当たっての注意 <ul style="list-style-type: none"> ● 2026年度は3年生のみのゼミです。 ● ゼミ説明会への参加は任意です。説明会のURLはMoodle「令和8年度室賀ゼミ説明会」に掲示します。 ● 受講者の選抜では、成績だけでなくサークル・部活・アルバイト・資格取得・趣味等の大学での学業以外の活動についても重視しますので、申込書には、志望理由と共に、あなたがこれまでに一生懸命取り組んでいらっしゃったことについても記述してください。 					

経済工学演習 (浦川 邦夫 ゼミ)

授業科目名	経済工学演習		講義題目	社会保障と税制	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード	—	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名		授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	特になし		キーワード	社会保障、税制	
全体の教育目標	日本や他の諸外国の歴史・制度・文化に対する理解を深め、現行の社会保障制度や税制に対する問題意識を培う。		個別の学習目標	ゼミ生同士で互いに交流し、データ分析、資料作成、発表等の一連のプロセスを通じて能動的な学習能力を培う。	
授業の概要 今年度の演習では、日本や諸外国の社会保障政策に注目し、医療・介護・年金などセーフティネットに関連する諸制度ならびに税制や最低賃金を通じた公共政策が、人々の働き方や、格差・貧困の削減にどのような影響を与えているかについて学ぶ。後期は、複数の大学が集まるインゼミ報告会に参加し、他大学の学生とのアカデミックな交流を通じて、自分の視野や可能性を大いに広げてもらいたい。					
授業計画 (春学期) 専門書に基づき、我が国の社会保障制度に関する具体的かつ専門的な知識を深める。社会保障政策が家計の経済活動や国・地域の経済成長、格差・貧困の削減に与える影響を分析した研究を学ぶ。 (秋学期) 家庭環境や教育・社会保障・税制が、人々の働き方や格差・貧困に与える影響を分析した研究の輪読・発表・討論を行う。インゼミに参加し、他大学の学生との交流機会を積極的に持つ。					
授業の進め方 報告・討論のゼミ形式で行う。 授業中に、データ分析に有用とされる、基本的な R のスキルについて解説する時間を設ける。			教科書及び参考図書 【教科書】 橋本陽子 (2024) 『労働法はフリーランスを守るか—これからの雇用社会を考える』ちくま新書 酒井正 (2020) 『日本のセーフティネット格差—労働市場の変容と社会保険』慶應義塾大学出版会 【参考書】 権丈善一 (2021) 『ちょっと気になる政策思想—社会保障と関わる経済学の系譜』勁草書房		
試験・成績評価の方法等 ゼミでの発表内容や課題50% 出席50%			その他 演習参加申込を行い、受講を認められた学生だけが登録できる。		
ゼミの企画、その他特記事項 スポーツ大会などの学内交流に加え、他大学とのインゼミ（神戸大学、慶應義塾大学などを予定）を行う。ゼミ旅行（医療・福祉施設の見学を含む）を通じて学際的な交流を行う。					
応募に当たっての注意 履修希望者は、ゼミ説明会（一覧表は別途掲示）に参加するようにしてください。 ゼミに関する質問は、メールで随時受け付けます。 urakawa@econ.kyushu-u.ac.jp					

経済工学演習

(吉田 賢一ゼミ)

授業科目名	経済工学演習		講義題目	事例（ケーススタディ）と実証分析を通じて学ぶ現代企業	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード	—	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名		授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	特になし		キーワード	日本企業の分析、ESG経営、CSR活動、コーポレート・ガバナンス（企業統治）	
全体の教育目標	本演習では、履修生が最新の実証論文を正しく理解する能力を身に着けることを目標とする。		個別の学習目標	実際の社会をデータ分析の結果を通して正しく理解し、建設的な解決法を提案できる能力を育む。	
授業の概要 この演習では、企業経済学、企業統治論、計量経済学などの分野に基づいて現代企業を研究します。主に、3年次には実証分析の手法などを学習します。また、受講生はグループを形成し、グループ単位で企業を対象とした詳細な調査を行い、実際の企業の事例について詳しく調査します。4年次には各自で研究テーマを設定してもらい、そのテーマに基づいて最近の実証分析を多数読み、理解を深めていきます。					
授業計画 <ul style="list-style-type: none"> まず、実証分析の手法などを学習します。 上記と同時に、実際の企業を対象としたケーススタディを受講生が主体的に行います。 そのうえで、受講生それぞれが自分で選定したテーマのもと、主に最近の実証研究を多数読み、自らがその内容を正しく理解するとともに、他者に対しても説明できる能力を身に着けていきます。 					
授業の進め方 一部、教員による講義を予定するが、主には受講生が報告者となり、他の受講生との質疑・議論により進められる通常の演習形式の授業を想定している。			教科書及び参考図書 【教科書】 演習内で適宜指示します。 【参考書】 演習内で適宜指示します。		
試験・成績評価の方法等 出席状況と、演習への貢献を考慮し、評価します。積極的な発言（提言・意見など）を求めます。			その他 演習参加申込を行い、受講を認められた学生だけが登録できる。		
ゼミの企画、その他特記事項 <ul style="list-style-type: none"> 基本的には履修者の皆さんの自主性に委ねます。積極的な提案を求めます。 BBQ や各種親睦会は、 Semesterごとに適宜開催する予定です。 履修中に留学を実施する等、事情を考慮すべき点がある場合にも可能な限り柔軟に対応します。					
応募に当たっての注意 <ul style="list-style-type: none"> 必須ではありませんが、可能な限り3年次、4年次の連続での履修を求めます。 履修希望者は、ゼミ説明会に可能な限り参加してください。 選抜が必要な場合には、面接を実施し、志望理由などに基づいて総合的に判断します。 					

経済工学演習 (葉 ゼミ)

授業科目名	経済工学演習		講義題目	行動経済学による個人や企業の行動への分析	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード	—	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	葉 聰明 (Tsung-ming Yeh)	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	とくになし		キーワード	行動経済学, 行動ファイナンス	
全体の教育目標	個人や企業の行動を経済学的に分析し, 個人の効用や企業価値への影響について評価することができること		個別の学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ● 自主的学習の習慣 ● プレゼンのスキル ● コミュニケーション能力 	
授業の概要 古典経済学のアプローチでは、人間・企業は理性的に行動する、つまり、限られる資源の中で、効用・利益を最大化するような行動をとるという前提になっている。一方、『行動経済学』のアプローチでは、人間が様々なバイアス（偏り）を持ち（例えば、経験則や横並びの意思決定を行い）、それが企業・投資家・家計にどのように影響し、どのような結果（企業価値、株価、消費・貯蓄など）をもたらすのかについて分析する。 このゼミでは個人や企業の行動を、古典経済学の考え方と比較させながら、『行動経済学』の考え方をを用いて分析する方法を勉強する。具体的な個人・企業行動について、個人による消費（買い物）、貯蓄、投資等、企業による投資、資金調達、M&A（企業合併買収）などを取り上げる予定である。					
授業計画 前期では行動経済学（ファイナンス）の定番的な教科書（外書）を使って勉強する。 後期では行動経済学（ファイナンス）に関する研究論文を読み、最新の研究結果を把握する。					
授業の進め方 教科書の章や研究論文をメンバーが分担して報告し、そのうえでゼミ全員で議論する。			教科書及び参考図書 海外の定番的な教科書（外書）を使う予定である。		
試験・成績評価の方法等 80%授業への貢献（報告や討議など） 20%レポート（もしくはその他の成果物）			その他 演習参加申込を行い受講を認められた学生だけが登録できる。		
ゼミの企画、その他特記事項 海外(アジア)の大学生との学术交流を行うセッション(一回)が開催される可能性がある。					
応募に当たっての注意 ゼミ説明会: 参加必須。 ゼミ選抜基準: 履修状況や成績など総合的に判断。 オープンゼミ実施: なし。 授業との重複や就職活動などでやむを得ず参加できない場合、別途面談。					

経済工学演習（堀 宣昭 ゼミ）

授業科目名	経済工学演習		講義題目	理論経済学 (国際マクロ経済学)	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード		
授業方法及び 開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	堀 宣昭	授業対象学生 及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	経済学入門、【基本】ミクロ経済学 I, II、マクロ経済学 I, IIの単位修得。		キーワード	国際マクロ経済学	
全体の教育目標	自分の理解・アイデアを論理的・効果的に表現する能力を涵養する。		個別の学習目標	授業の概要を参照。	
授業の概要					
<p>本ゼミでは、2年間の演習を通じて、ミクロ経済理論・マクロ経済理論の広範な応用分野を学習する。ミクロ経済学では、ゲーム理論や情報の経済学の企業経済分野、公共経済分野への応用を学ぶ。マクロ経済学では、国際経済学への応用を中心に学ぶ。ゼミは、3-4年合同で行う。</p> <p>令和8年度は、国際マクロ経済学のテキストを講読し問題演習を行う。</p>					
授業計画					
【前期】					
第Ⅰ部：経常収支の決定					
【後期】					
第Ⅱ部：実質為替レート					
第Ⅲ部：国際的な資本の移動性					
第Ⅳ部：金融政策と為替レート					
授業の進め方			教科書及び参考図書（予定）		
教科書の各章について、			シュミット＝グローエ・ウリベ・ウッドフォード著		
■ 本文部分を担当者が報告し、全員で内容について議論する。			『国際マクロ経済学』2024, 東洋経済新報社。		
■ 演習問題は全員が解答を作成し、担当者が自分の担当問題を解説する。					
試験・成績評価の方法等			その他		
報告の内容及び平素の学習態度（出席も含む）。			演習参加申込を行い、受講を認められた学生だけが登録できる。		
ゼミの企画、その他特記事項					
■ 本ゼミでは、二年間の演習を通じて、ミクロ・マクロを問わず、経済学の理論を究めてみたいという学生を歓迎します。					
■ 令和9年度は、企業経済分野、公共経済分野のテキストの講読を予定します。					
■ 通常ゼミでのテキストとは別に、テクニカルではない経済哲学、政治哲学に関する文献を集中的に講読する時間（合宿？）を別途考えたいと思います。この企画は、本ゼミ生に限らず、広く参加を募る予定です。					
応募に当たっての注意					
■ オープンゼミは実施しません。応募に当たってゼミ説明会への参加は必須ではありませんが、本演習の意図、目指すところについて説明します。ミスマッチを防ぐためにもできるだけ参加しておいてください。（ゼミ説明会の録画は公開します。）					
■ 応募者多数の場合は面接をすることがあります。					

経済工学演習 (菅 史彦ゼミ)

授業科目名	経済工学演習		講義題目	実践・データ分析	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード*	—	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	菅 史彦	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	統計学・計量経済学の基礎を理解していることが望ましいですが、並行履修でも構いません。		キーワード	マイクロデータ分析、計量経済学、労働経済学	
全体の教育目標	データから何がわかって何がわからないのかを知ること。 自分の考えの正しさ・確からしさを示すために、自分でデータを分析できるようになること。 自分の考えを人に伝えるための技術を磨くこと。		個別の学習目標	3年生の目標は、統計学・計量経済学の有用性と限界を理解し、統計ソフトR（もしくはPython）を使いこなせるようになること。 4年生は、各自でテーマと分析したいデータを見つけ、統計ソフトを使って自力でデータ分析ができるようになること。	
授業の概要					
<p>ICT技術の発展により、データ分析の技術や知識が活きる場面が増えています。自分のアイデアが優れていることを示したり、自分の主張が正しいこと、あるいは誰かの主張が間違っていることを証明したりしたいときに、データ分析は強力なツールになります。また、世の中にはデータを使った嘘やごまかしが溢れており、そういったものに惑わされないためにも、データ分析に関する基本的な知識は役に立ちます。</p> <p>データ分析にも様々なトピックがありますが、菅ゼミでは因果推論をメインテーマに据えています。因果推論とは、データから変数間の因果関係（原因・結果の関係）を見出す手法のことです。一般に、相関関係（二つの変数が連動していること）は、必ずしも因果関係を意味するとは限らず、見せかけの相関や逆の因果に多くの人が騙されがちです。因果推論を学ぶことで、どのような情報や変数があれば、変数間の因果関係を証明することができるのかを知ることができます。また、それを知ることで、世の中で一般的に用いられている統計分析の問題点やごまかしに気づくことも可能になります。</p> <p>本演習では、データ分析（統計学・計量経済学）、特に因果推論に関する基本的な知識を身に付けてもらうとともに、実際に統計ソフトを使ってみることで、データ分析の技術を習得してもらうことを目的としています。それにより、データを使って何が出来て、何が出来ないのかを知り、皆さんがデータ分析を将来の仕事や日々の暮らしに役立てることができるようになることを目指します。</p> <p>ゼミは基本的には3、4年生合同で、大学院生にもたまに参加してもらうこともあるかもしれません。</p>					
授業計画					
【前期】					
<p>3年生（ゼミ一年目）は、教科書の輪読（発表&議論）、東京大学社会科学研究所データアーカイブのデータ紹介、およびデータ分析に関する本の発表を平行して行います。教科書の発表では、統計ソフトR（もしくはPython）を使い、教科書の例の再現と演習問題の解説をしてもらいます。</p> <p>4年生（ゼミ二年目）は、各自関心のあるテーマに沿って東京大学社会科学研究所データアーカイブでデータを見つけ、前期の終わりにデータの概要や関心のある変数の分布や基本統計量について発表してもらいます。発表のタイミングについては、就職活動の進捗状況を考慮し、可能な限り柔軟に決めることとします。</p>					
【後期】					
<p>3年生は、教科書の輪読の代わりに東京大学社会科学研究所データアーカイブのデータを使い、実際にデータを使った実証分析をしてもらいます。データ紹介と本の発表は後期も継続します。</p> <p>4年生は、後期の最初に分析の背景や先行研究について発表してもらいます。その後、前期に選んだデータを使い、回帰分析等の手法を駆使して分析し、分析結果について冬休み前に簡単に発表してもらい、</p>					

<p>学期末に分析を修正し全てまとめたものを発表してもらいます。分析結果はデータ利用報告書としてまとめてもらいます(全員)が、希望者については卒業論文にまとめてもらいます(希望者のみ)。 前期後期通して、発表内容に関して私が発表者や(学年問わず)全ての参加者に質問するとともに、適宜グループディスカッションも行います。 空いた時間を使って、生成AIを使った資料作成の方法や、Pythonを使った機械学習などについても議論したり一緒に勉強したいと考えています。 4年生から受講し始める場合は、3年生と同じ内容で発表してもらいます。</p>	
<p>授業の進め方 一人20~30分程度で、毎回3~4人に順番に発表してもらいます。基本的にはスライドを使って発表し、内容について全員で議論します。また、前期は教科書に練習問題があるので、解き方をランダムに当てた一人に解説してもらいます。 データ分析は無料統計ソフト”R”(もしくはPython)を使って実習を行う。前期にRの使い方、後期はデータの使い方に関するチュートリアルセッションを行い、3年生のうちに回帰分析まで一通りできるようになることを目指します。 必要に応じて毎回私から質問をし、発表者に答えてもらったり、グループディスカッションを行ったりする予定です。</p>	<p>教科書及び参考図書 【教科書】 星野匡郎&田中久稔(2023)『Rによる実証分析—回帰分析から因果分析へ—』第二版 オーム社 もしくは、 松浦寿幸(2024)『Rによるデータ分析入門—経済分析の基礎から因果推論まで—』 もしくは、 金本拓『因果推論—基礎から機械学習・時系列解析・因果探索を用いた意思決定のアプローチ』 【参考書】 伊藤公一朗(2017)『データ分析のカー因果関係に迫る思考法』 西山慶彦、新谷元嗣、川口大司、奥井亮(2019)『計量経済学(New Liberal Arts Selection)』有斐閣</p>
<p>試験・成績評価の方法等 発表(50%)、出席&授業態度(30%)、宿題(20%)。授業態度は積極性を重視します。</p>	<p>その他 演習参加申込を行い、受講を認められた学生だけが登録できることとします。四年次から受講する学生は、三年生と同じ扱い(同じ発表内容)とします。</p>
<p>ゼミの企画、その他特記事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 四年生が提出するデータ利用報告書は、四年次にスライドを使って発表したものを文章にしてまとめ、必要に応じて加筆修正したものを想定しています。 ▶ 卒業論文は、上記のデータ利用報告書にさらに加筆修正を行い、きちんと論文としての体裁を整えたものを想定しています ▶ 卒業論文の執筆については、希望者のみ指導します。ただし、大学院進学希望者や、(留学などの際に)将来的に推薦状が必要となる可能性があると思う学生は、可能な限り執筆することとします。 <p>ゼミ合宿やインターゼミ等の企画はまだありませんが、希望者がいれば積極的に開催します。</p>	
<p>応募に当たっての注意</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ ゼミ説明会はハイフレックスで行います。Moodle に説明会用のページ(『2025 年度通年・経済工学演習説明会(菅 史彦)』)を設置し、そこに Zoom のリンクを貼り付けます。 ▶ ゼミ説明会には可能な限り参加してください。参加できない場合は、Moodle 上にアップされた資料を参照し、質問がある場合はメール(f.suga“at”econ.kyushu-u.ac.jp)に連絡してください。 <p>応募数が上限を超えた場合には、統計学・計量経済学への理解度、関心のあるテーマとGPAに基づいて書類選考を行います。そのため、演習参加申込書には、</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 統計学や計量経済学に関係する講義をこれまでに受講したことがあるか、あればその時の成績、 ② 興味・関心のあるテーマ(統計学や計量経済学でなくても構わない)、 ③ GPA <p>を明記してください。</p>	

経済工学演習 (小室 理恵ゼミ)

授業科目名	経済工学演習		講義題目	微分方程式を用いた数理モデリング	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード*		
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	小室 理恵	授業対象学生及び学年等	3年次以上
単位数	4単位				
履修条件	基幹教育で必修の数学の授業内容を理解していること.		キーワード	数理モデリング, 常微分方程式	
全体の教育目標	様々な分野における現象を微分方程式で構築し, それらの解のふるまい等を分析する.		個別の学習目標	教科書を読んで内容を理解するだけでなく, 発展的に学習する能力を身に付ける.	
授業の概要 現象を数式で表すことを数理モデリングという. 微分方程式は数理モデルとしてよく使われる手法であり, 物理や生物の現象を説明するための非常に有効なツールである. 経済学の分野でも微分方程式を用いて様々な数理モデルを構築することができる. また, 少し前に大きな関心事であった感染症の広がりや表すのにも用いられている. この授業では, 微分方程式を用いた数理モデルを扱う. 様々な分野における現象を微分方程式で表すこと, さらにその解の分析方法についても学習する. 2年目以降の受講者(4年生)とは別に行う.					
授業計画 まずは基礎となる常微分方程式の教科書を読み進め, 途中で何度か数理モデルを使った応用例(絵画の年代測定, 感染症の広がり, 生物の捕食-被食関係等)を取り上げる. 基礎知識をある程度得た後, ソフトウェアを用いて数値的解法や解の分析方法を学習する.					
授業の進め方 輪講形式で教科書を読み進める			教科書及び参考図書 【教科書】いくつかの選択肢の中から, 受講者と相談して決定する予定.		
試験・成績評価の方法等 原則として出席(参加)必須である. 成績は, 授業への参加, 授業での発表等で総合的に評価する.			その他 演習参加申込を行い受講を認められた学生だけが登録できる.		
ゼミの企画、その他特記事項 数学が「得意」である必要はないが, 数学に拒否感がないことが参加の条件である.					
応募に当たっての注意 ゼミ説明会: 対面とオンラインどちらでも参加可能のハイフレックス形式で行う予定である. ミスマッチを避けるため, ゼミ履修希望者は出席することが望ましい. 出席できなかった場合は応募前に必ずメールで連絡する. Moodle のコースページ「2026 年度経済工学演習説明会(小室ゼミ)」に情報を掲載するので, 説明会参加予定者は, 参加方法に関わらず必ず事前にコース登録しておく. https://moodle.s.kyushu-u.ac.jp/course/view.php?id=68633 経済 HP 内の「ゼミナール関連情報」にも情報を掲載予定である. 申込書: 志望理由を重視する. また, こちらから連絡することもあり得るので, 定期的にチェックしているメールアドレスを明記する. メールでの質問は随時受け付ける(rie.komuro'at'econ.kyushu-u.ac.jp 'at'を@に変更する).					

経済工学演習 (大西俊郎ゼミ)

授業科目名	経済工学演習		講義題目	データ解析のための数理統計入門	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード	—	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	大西俊郎	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	微分積分学Ⅰ・Ⅱ, 線形代数Ⅰ・Ⅱおよび数理統計学Ⅰ・Ⅱの単位を修得済みであること.		キーワード	線形回帰, ロジスティック回帰, 分散分析, Bayes統計とMCMC法, ブートストラップ法, ノンパラメトリック検定, 生存時間解析, 多変量解析	
全体の教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 統計学の理解の深化 ✓ プレゼンテーション能力の向上 		個別の学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ✓ Bayes統計学および頻度主義の統計学の理解 ✓ プログラミング言語の習得 	

授業の概要

データ解析に必要な数理統計学のさまざまな手法を学ぶ。近年注目を集めているBayes (ベイズ) 統計学も含まれる。

統計学は科学の文法と言われることがあり, 自然科学・人文科学・社会科学の幅広い学問分野で実証分析・データに基づいた意思決定に用いられている。Bayes統計学の特長は, 事前情報とデータを統合することによって合理的な推測を可能にする点にあり, 未知パラメータの個数が多い場合にパフォーマンスがよいことが知られている。ビッグデータでは多数の未知パラメータを含む統計モデルが用いられるため, Bayes統計学は今後その重要性がますます高まると予想される。2年次の数理統計学Ⅰ・Ⅱで学んだ内容は, Bayes統計学と対比して頻度主義の統計学と呼ばれる。

この授業では, 定評のある数理統計学の教科書の輪読を通じて, Bayes統計学を含むさまざまな数理統計学の手法を修得することを目標とする。教科書を分担して輪読するセミナー形式で学ぶ。演習は3・4年別に行う(3年生は4時限, 4年生は5時限)。

授業計画

1. 3・4年次の全60回(90分×15回×4学期=90時間)の授業で「データ解析のための数理統計入門」を読了することを目指す
 - (1) 教科書の第1章から第9章は, 数理統計学Ⅰ・Ⅱと重なる部分が多いが, 数理統計学Ⅰ・Ⅱで取り扱わなかった内容も含まれている。
 - 第1章 確率モデル, 第2章 確率変数と確率分布, 第3章 2変数の同時確率分布,
 - 第4章 期待値と積率母関数, 第5章 統計モデルとデータの縮約,
 - 第6章 大数の法則と中心極限定理, 第7章 正規分布から導かれる分布,
 - 第8章 パラメータの推定, 第9章 仮説検定と信頼区間
 - (2) 教科書の第14章でBayes統計学の考え方を学ぶ。
 - 第14章 ベイズ統計とMCMC法
 - (3) 第10章から第17章でさまざまな数理統計の手法を学ぶ。単回帰と重回帰は基礎計量経済学Ⅰ・Ⅱでの学習の復習となる。
 - 第10章 カイ2乗適合度検定と応用例, 第11章 回帰分析—単回帰モデル—,
 - 第12章 重回帰モデル, 第13章 ロジスティック回帰とポアソン回帰,
 - 第15章 分散分析と多重比較, 第16章 分布によらない推測法, 第17章 多変量解析手法
2. 必要な数学知識を補強する
1年次に使用した微分積分学と線形代数学の教科書を利用して, 必要な数学知識を補強する。
3. プログラミング言語の習得
Pythonまたは統計ソフトウェアRの初歩的な部分を学び, グラフィック機能を使うことにより教科書の内容を視覚的に理解する。PythonまたはRの利用を通してプログラミングを学ぶことができる。

授業の進め方 セミナー形式で行う。	教科書及び参考図書 【教科書】 「データ解析のための数理統計入門」 久保川達也，共立出版 【参考書】 数理統計学Ⅰ・Ⅱ，微分積分学Ⅰ・Ⅱ，線形代数学Ⅰ・Ⅱの教科書
試験・成績評価の方法等 演習での発表・質疑応答を総合的に評価する。	その他 演習参加申込を行い，受講を認められた学生だけが登録できる。

ゼミの企画、その他特記事項

1. 統計学の**理論を体系的に修得**することがゼミの特色である。**Python** や **R** による**プログラミングも学ぶことができる**。
2. ゼミ論文の代わりに**統計検定2級（3年次）**，**準1級（4年次）**の合格を課す。2級は大学基礎科目レベル。検定試験については <http://www.toukei-kentei.jp/> を参照。
3. 要望に応じて自主的な勉強会を行うことも可能。経済学部のカリキュラムにない数学（複素関数，ルベーク積分）の本の輪読，アクチュアリー試験対策を実施したことがある。

応募に当たっての注意

1. **就職活動を理由として経済工学演習の授業を欠席することは認めない。**
2. **ゼミ説明会は参加必須とする。不参加の者は受け入れない。**
3. 申込書には GPA とともに**微分積分学Ⅰ・Ⅱ**，**線形代数学Ⅰ・Ⅱ**，**数理統計学Ⅰ・Ⅱ**の**成績を記入**すること。もし応募多数となった場合は，これら科目の成績を重視して選考を行う。
4. オープンゼミは行わないが，随時相談を受け付ける。

経済工学演習

(北原 知就

ゼミ)

授業科目名	経済工学演習		講義題目	経済学と数理最適化	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード	—	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名		授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	「微分積分学・同演習AB」、 「線形代数・同演習AB」の単位を修得していることを必須とします。		キーワード	経済学、数理最適化、オペレーションズ・リサーチ	
全体の教育目標	論理的・数学的思考能力と、自分の考えを他人に明確に伝えられる力、座学で得た知識を応用する能力の向上を目指します。		個別の学習目標	1. 専門文献を理解できる。 2. 自分が理解したことを他人に自分の言葉でわかりやすく説明できる。 3. 自ら課題を見つけて勉強や研究を進められる。	
授業の概要 AIの発展により、次々に新しい技術が生まれています。生成AIにキーワードを打ち込めば、答えらしきものは返ってきますが、その真偽を見極めなければ、誤った判断につながるおそれがあります。事象を自分で考え、理解する力はどの時代にも求められます。このゼミでは、経済学や数理最適化に関する教科書や論文を精読し、そのような能力を鍛えることを目指します。また、理解した内容を他人に正確に伝える力を、発表や議論を通じて磨いていきます。さらに、知識の習得にとどまらず、それを経済問題等に应用する力も育てていきたいと考えています。					
授業計画 本授業は、経済学や数理最適化に関する教科書や論文を精読し、論理的・数学的思考力と、自分の考えを他人にわかりやすく説明する力を鍛えます。また、培った知識を現実問題の解決に応用する実践的な内容も取り入れる予定です。					
授業の進め方 日本語または英語で書かれた専門文献を精読します。毎回担当を決めて発表してもらい、発表内容をもとに議論します。			教科書及び参考図書 【教科書】 適宜指定します。 【参考書】 適宜指定します。		
試験・成績評価の方法等 発表内容、議論への貢献、出席状況などを総合的に評価します。			その他 演習参加の申込みを行い、受講を認められた学生だけが登録できます。		
ゼミの企画、その他特記事項 1. 学生の皆さんと意見を出し合いながら、より良いゼミを一緒に作っていきたくと考えています。 2. 皆さんのよい部分を見つけ、伸ばしていけるようなゼミでありたいと思っています。 3. ゼミの企画は学生の皆さんの自主性にお任せします。					
応募に当たっての注意 1. ミスマッチを避けるため、面談を実施します。面談を受けていない方は受け入れできません。面談を受けても、必ずしも当ゼミを志望する必要はありません。下記の URL からお気軽にお申し込みください。 https://forms.gle/MtaaoxCeqrXXTmZd8 2. 下記の私のウェブサイトにて、ゼミの詳細を掲載しています。参考にしてください。					

<https://tomonari-kitahara.github.io/website/>

3. ゼミ説明会はオンラインで行います。当ゼミへの志望にあたり、参加は必須ではありません。Zoom の URL は Moodle の下記のページに掲載します。説明会に参加を希望される方は、コース登録をお願いします。高専生で説明会に参加を希望される方は、下記メールアドレスに連絡をお願いします。

<https://moodle.s.kyushu-u.ac.jp/course/view.php?id=65875>

4. オープンゼミは実施しませんが、ゼミへの参加を希望される場合はお気軽にご連絡ください。
5. ゼミについてわからないことがありましたら、下記アドレスにご連絡ください。
tomonari.kitahara'at'econ.kyushu-u.ac.jp ('at'を@で置き換えてください)

経済工学演習 (松本 浩一 ゼミ)

授業科目名	経済工学演習		講義題目	金融工学・数理ファイナンス	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード*		
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	松本 浩一	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	線形代数, 微分積分, 基礎的な確率・統計の知識		キーワード	金融工学, 数理ファイナンス	
全体の教育目標	金融工学の専門知識の習得		個別の学習目標	Black Scholes 価格の理解	
授業の概要 金融工学は金融機関における投資, リスク管理, 商品開発などのために発展してきた学問である。最近では, 天候, 地震, 不動産, 企業経営に伴う事業リスク等も研究対象としており, 応用分野は多岐にわたる。今や金融工学は金融機関のみならず, 一般企業にとっても有用な学問である。 本講義は, 金融工学の専門知識を生かした職務を志望する学生, あるいは研究者を目指す学生を対象としたゼミである。ゼミでは特に数理的専門能力の育成に重点を置く。					
授業計画 講義では, 金融工学に関する教科書を分担して精読する。金融工学の専門的知識を深めつつ, 金融市場に関する知識もバランスよく身に付けていくことが重要である。教科書は受講予定者の希望を踏まえて決定する。					
授業の進め方 教科書を分担して担当者が説明し, 質疑応答を行うセミナー形式で行う。			教科書及び参考図書 Steven E. Shreve, <i>Stochastic Calculus for Finance I: The Binomial Asset Pricing Model</i> , Springer Verlag, 2003 ジョン ハル, 東京三菱銀行金融商品開発部(翻訳)『フィナンシャルエンジニアリング—デリバティブ取引とリスク管理の総体系』金融財政事情研究会, 2016年		
試験・成績評価の方法等 平素の授業での発表, 質疑応答を総合的に評価する。			その他 演習参加申込を行い受講を認められた学生だけが登録できる。		
ゼミの企画、その他特記事項 文理双方の能力を必要とする。数学, 経済, 計算機すべてに意欲的に取り組める好奇心旺盛な学生が望ましい。					
応募に当たっての注意 本ゼミへの参加を希望する学生は説明会に参加し, 定められた日時までに以下の手続きを行うこと。 1. <u>ゼミ説明会は Zoom にて行う予定である。</u> ゼミ説明会の参加希望者には, Zoom の URL を連絡するので, 説明会前日の正午までに下記の講義の Moodle へ登録を行い, Moodle の指示に従うこと。 2025 年度通年・木 4・経済工学演習①(松本 浩一) 説明会で相談時間を設けるが, 説明会に参加できず, 個別相談を希望する場合はメールすること。					

2. 演習参加申込書 (Word) に下記の内容をすべて記述し、事務に提出すること。

- (1) 将来の夢, 展望 (希望職務, 大学院進学等, なるべく具体的に記入)
- (2) 志望動機
- (3) ゼミ関連科目成績 (以下の基幹教育数学の成績は必ず記入, 3年次編入者は対応科目を記入)
線形代数学 I 線形代数学 II 微分積分学 I 微分積分学 II
金融工学・数理ファイナンス関連分野 (数学, 統計, 計算機等) があれば記入
- (4) 自分が当てはまると思うほうを選択せよ。
数学が (好き, 嫌い), 数学が (得意, 苦手)
- (5) 英語のテキストを使用することは可能か。
- (6) 2年間, ゼミに集中して取り組むことができるか。
(毎週, 十分な予習が必要となるため, 副ゼミは不可)
- (7) 自己アピール
(他のゼミ参加者に, どのような貢献ができるか, 理由を明確にして記述すること)

3. 必ず, メールにて松本までゼミ参加希望の連絡をすること。

本文には必ず氏名, 学籍番号を含め, 事務に提出した **Word ファイル複製を添付**すること。
なお, 重要事項を送付してきたメールに返信連絡する予定であるため, 普段から確認しているメールアドレスを用いること。

ゼミ参加申請後, 参加希望者全員と Zoom による面接を実施する。

経済工学演習 (伊豆永 洋一 ゼミ)

授業科目名	経済工学演習		講義題目	モデリングとアルゴリズム	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード	—	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	伊豆永 洋一	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	微分積分学Ⅰ・Ⅱ， 線形代数学Ⅰ・Ⅱ を履修済みであること。		キーワード	数理最適化，アルゴリズム	
全体の教育目標	数学という共通の言語を用いた論理的な思考法や，明快に表現する能力を身につける。		個別の学習目標	数理最適化におけるモデリング技法とアルゴリズムを理解し，それらを適切に活用する。	
授業の概要					
<p>近年，機械学習に代表されるように大量の情報を収集・認識する技術が目覚ましい発展を遂げている。そのような収集・認識された情報から意思決定を行うための技術の一つに数理最適化（数理計画法）がある。本ゼミでは，これらの技術の背後にあるモデリング手法やアルゴリズムを理解することを目標とする。また，プログラミング言語によるアルゴリズム実装やそれを用いた応用分析も行う。</p>					
授業計画					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 数学的準備（集合論，線形代数，微積分） 2. Python を用いた演習 					
授業の進め方			教科書及び参考図書		
<p>輪講形式で進行し，各回の担当者が資料を作成し内容を説明する。モデリングやプログラミングに関する演習も実施予定。</p>			<p>【教科書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『経営工学の数理Ⅱ』宮川雅巳他，朝倉書店。 ・『Pythonではじめる数理最適化』岩永二郎他，オーム社。 <p>【参考書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『しっかり学ぶ数理最適化』，梅谷俊治，講談社。 ・『新版・数理計画入門』 福島雅夫，朝倉書店。 		
試験・成績評価の方法等			その他		
<p>ゼミでの発表・質疑応答および演習への取り組み等を総合的に評価する。</p>			<p>演習参加申込を行い受講を認められた学生だけが登録できる。</p>		
ゼミの企画、その他特記事項					
<ul style="list-style-type: none"> ・ゼミで取り扱う内容は，みなさんの興味に応じて柔軟に対応します。 ・参考までに過去に学生（他大学）が扱ったテーマの一例を挙げておきます。 https://x.gd/2feWd ・例年，歓迎会と忘年会 or 新年会を開催しています。それ以外の企画については，学生の皆さんの自主性にお任せします。 					

応募に当たっての注意

- ゼミ説明会は対面で行います。オープンゼミも実施予定です。
- 説明会やオープンゼミに関する情報はMoodleを通じて提供するので、参加を希望される方は以下のコースに登録してください。

「2026年度 経済工学演習に関する案内（伊豆永 洋一）」

- 本ゼミを希望される方は、可能な限り説明会に参加してください。参加が難しい場合は、個別あるいはオンデマンド等にて対応しますので、メールにてご連絡ください。
- 演習参加申込書には、必ず下記の内容を記入してください。
 - (1) 応募理由
 - (2) 数学あるいは情報科学に対する興味関心
- 申込後に、対面あるいはオンラインで面談を実施する予定です。

何か質問があれば、お気軽にメールにてご連絡ください。

E-mail: izunaga<at>econ.kyushu-u.ac.jp (<at> --> @)

経済工学演習

(李 文 ゼミ)

授業科目名	経済工学演習		講義題目	データで読む現代社会	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード		
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	李 文	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	計量経済学系の科目を履修していることが望ましい。履修がない場合でも、基礎から指導するため、データ分析に対する強い学習意欲があれば応募可能。		キーワード	社会経済データ分析／実証研究／データサイエンス	
全体の教育目標	本ゼミでは、社会経済データを用いた実証分析を通じて、論理的思考力およびデータリテラシーの向上を図ることを目的とする。さらに、グループ発表やディスカッションを通じて、他者と協働しながら問題を発見・検証・解決する能力を養う。また、必要に応じて英語文献や海外の研究事例を取り上げ、学生が自然に国際的な視点を身につけられるようにする。		個別の学習目標	<p>経済データを整理・分析するための基本的なスキル（Rなどの計量ソフトの操作を含む）を身につける。</p> <p>先行研究や統計資料を批判的に読み、自らの関心に基づいた研究課題を設定できるようにする。</p> <p>分析結果を論理的かつわかりやすくまとめ、発表・討論を通じて表現力と説明力を高める。</p>	
授業の概要 本ゼミでは、社会経済データを用いた実証研究を行う。学生各自が関心のあるテーマ（例：社会移動・教育リターン・労働参加・ジェンダー格差など）を設定し、Rを用いて統計的手法を用いた実証分析を実践する。3・4年合同で実施し、3年次は基礎的な分析手法の理解と文献輪読を中心とする。					
授業計画 第1回 ガイダンス・ゼミの進め方について 第2～4回 輪読とディスカッション 第5～10回 データ収集・分析演習 第11～15回 発表・フィードバック					
授業の進め方 学生主体の発表・討論形式で進める。各自が設定したテーマについて分析を行い、結果を報告・共有しながら理解を深める。教員は方法論やデータ処理のサポートを行う。 プログラミング経験がなくても、基礎から段階的に指導する。			教科書及び参考図書 特定の教科書は指定しないが、必要に応じて以下の文献を参考図書として用いる。 アビジット・V・バナジー、エステル・デュフロ（2020）『絶望を希望に変える経済学：社会の重大問題をどう解決するか』日本経済新聞出版。 有賀友紀・大橋俊介（2021）『RとPythonで学ぶ [実践的] データサイエンス&機械学習【増補改訂版】』技術評論社。		

	<p>江崎貴裕 (2020) 『分析者のためのデータ解釈学入門：データの本質をとらえる技術』SBクリエイティブ.</p> <p>Hadley Wickham・Mine Çetinkaya-Rundel・Garrett Grolemund (2024) 『Rではじめるデータサイエンス 第2版』大橋真也訳, オライリー・ジャパン.</p>
<p>試験・成績評価の方法等 平常点（出席・発表・討論への貢献）と最終発表を総合的に評価する。</p>	<p>その他 演習参加申込を行い、受講を認められた学生のみ登録できる。</p>
<p>ゼミの企画、その他特記事項</p> <p>本ゼミでは、ゼミ生相互の協働を重視し、意見交換やグループワークを通じて互いに学び合う環境の形成を図る。必要に応じて発表練習会やゼミ合宿を実施する場合がある。また、学期の節目には懇親会等を通じて親睦を深める機会を設ける。</p>	
<p>応募に当たっての注意</p> <p>ゼミ説明会は参加必須とする。 やむを得ず欠席する場合は、必ず事前に担当教員へメールで連絡すること。 「（連絡先）li.wen.209@m.kyushu-u.ac.jp」</p> <p>なお、必要に応じて選抜を行う。選抜は、申込書に記載されたデータ分析への意欲、関心のあるテーマ、およびこれまでの学業成績（GPA など）に加え、個別面談等での内容を総合的に判断して行う。</p>	